西中学校特別教室棟耐震補強（建築主体）工事

■ 建　築　図

図面番号	図　面　名　称	縮　尺
-	表紙・図面リスト	―――
A - 1	建築改修工事仕様書（1）	―――
A - 2	建築改修工事仕様書（2）	―――
A - 3	建築改修工事仕様書（3）	―――
A - 4	建築改修工事仕様書（4）	―――
A - 5	建築改修工事仕様書（5）	―――
A - 6	付近見取図・配置図	S=1/1,000
A - 7	面積求積図	S=1/300
A - 8	外部仕上表・内部仕上表（1）	―――
A - 9	内部仕上表（2）	―――
A - 10	1階平面図	S=1/200
A - 11	2階平面図	S=1/200
A - 12	3階平面図	S=1/200
A - 13	4階平面図	S=1/200
A - 14	R階平面図	S=1/200
A - 15	南立面図	S=1/200
A - 16	東立面図	S=1/200
A - 17	北立面図	S=1/200
A - 18	西立面図	S=1/50
A - 19	既存　断面詳細図（1）	S=1/50
A - 20	改修　断面詳細図（1）	S=1/50
A - 21	既存　断面詳細図（2）	S=1/50
A - 22	改修　断面詳細図（2）	S=1/50
A - 23	[1連ﾌﾞﾚｰｽｶﾊﾞｰ]架構詳細図	S=1/50
A - 24	[2連ﾌﾞﾚｰｽｶﾊﾞｰ]架構詳細図	S=1/50
A - 25	改修1階便所平面詳細図・断面詳細図	S=1/50
A - 26	便所詳細図（2～4階平面詳細図）	S=1/50
A - 27	既存　展開図-1　[1階技術教室・技術準備室(A).(B)・女子便所]	S=1/100
A - 28	改修　展開図-1　[1階音楽教室・音楽準備室・女子便所]	S=1/100
A - 29	既存　展開図-2　[1階男子便所・廊下・昇降口・ﾎﾟﾝﾌﾟ室]	S=1/100
A - 30	改修　展開図-2　[1階男子便所・廊下・昇降口・ﾎﾟﾝﾌﾟ室]	S=1/100
A - 31	既存　展開図-3　[2階印刷室・教材室・ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ室]	S=1/100
A - 32	改修　展開図-3　[2階技術準備室・技術教室・ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ室]	S=1/100
A - 33	既存　展開図-4　[2階ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ準備室・被服教室・準備室・調理教室]	S=1/100
A - 34	改修　展開図-4　[2階ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ準備室・被服教室・準備室・調理教室]	S=1/100
A - 35	既存　展開図-5　[2階調理準備室・廊下]	S=1/100
A - 36	改修　展開図-5　[2階調理準備室・廊下]	S=1/100
A - 37	既存　展開図-6　[3階美術室前室・美術室・準備室・第一理科教室]	S=1/100
A - 38	改修　展開図-6　[3階美術室前室・美術室・準備室・第一理科教室]	S=1/100
A - 39	既存　展開図-7　[3階第一・第二理科準備室・第二理科室・図書室]	S=1/100
A - 40	改修　展開図-7　[3階第一・第二理科準備室・第二理科室・図書室]	S=1/100
A - 41	既存　展開図-8　[3階廊下]	S=1/100
A - 42	改修　展開図-8　[3階廊下]	S=1/100
A - 43	既存　展開図-9　[4階音楽教室・準備室・男子.女子便所（2.3.4階）]	S=1/100
A - 44	改修　展開図-9　[4階多目的室・相談室・男子.女子便所（2.3.4階）]	S=1/100
A - 45	既存　展開図-10　[4階会議室・多目的活動室・相談室（2）・暗室]	S=1/100
A - 46	改修　展開図-10　[4階会議室・多目的活動室・相談室（2）・暗室]	S=1/100
A - 47	既存　展開図-11　[4階視聴覚室・廊下]	S=1/100
A - 48	改修　展開図-11　[4階視聴覚室・廊下]	S=1/100
A - 49	階段（1）：既存階段展開図（1）	S=1/50
A - 50	階段（1）：既存階段展開図（2）	S=1/50
A - 51	階段（1）：既存階段展開図（3）	S=1/50
A - 52	階段（2）：既存階段展開図（4）	S=1/50
A - 53	階段（2）：既存階段展開図（5）	S=1/50
A - 54	階段（2）：既存階段展開図（6）	S=1/50
A - 55	階段（1）：改修階段展開図（1）	S=1/50
A - 56	階段（1）：改修階段展開図（2）	S=1/50
A - 57	階段（1）：改修階段展開図（3）	S=1/50
A - 58	階段（2）：改修階段展開図（4）	S=1/50
A - 59	階段（2）：改修階段展開図（5）	S=1/50
A - 60	階段（2）：改修階段展開図（6）	S=1/50
A - 61	既存・改修　1階天井伏図	S=1/200
A - 62	既存・改修　2階天井伏図	S=1/200
A - 63	既存・改修　3階天井伏図	S=1/200
A - 64	既存・改修　4階天井伏図	S=1/200
A - 65	改修　1.2階建具・家具ｷｰﾌﾟﾗﾝ	S=1/200
A - 66	改修　3.4階建具・家具ｷｰﾌﾟﾗﾝ	S=1/200
A - 67	既存建具表-1	S=1/100
A - 68	既存建具表-2	S=1/100
A - 69	既存建具表-3	S=1/100
A - 70	改修建具表	S=1/100
A - 71	改修家具表	S=1/100
A - 72	仮設計画図（1）-　外部	S=1/100
A - 73	仮設計画図（2）-　耐震補強改修時（参考）	S=1/300
A - 74	仮設計画図（3）-　1～3階老朽改修時（参考）	S=1/300
A - 75	仮設計画図（4）-　4階老朽改修時（参考）	S=1/300
A - 76	仮設計画図（5）-　仮工程表（参考）	―――

■ 耐　震　改　修　図

図面番号	図　面　名　称	縮　尺
K - 1	耐震補強特記仕様書（1）	―――
K - 2	耐震補強特記仕様書（2）	―――
K - 3	基礎梁伏図・基礎伏図[ﾌﾞﾚｰｽ補強位置図]	S=1/200
K - 4	2階梁伏図・3階梁伏図[ﾌﾞﾚｰｽ補強位置図]	S=1/200
K - 5	4階梁伏図・R階梁伏図[ﾌﾞﾚｰｽ補強位置図]	S=1/200
K - 6	軸組図（1）[ﾌﾞﾚｰｽ補強位置図]	S=1/200
K - 7	軸組図（2）[ﾌﾞﾚｰｽ補強位置図]	S=1/200
K - 8	軸組図（3）[ﾌﾞﾚｰｽ補強位置図]	S=1/200
K - 9	軸組図（4）[ﾌﾞﾚｰｽ補強位置図]	S=1/200
K - 10	軸組図（5）[ﾌﾞﾚｰｽ補強位置図]	S=1/200
K - 11	部材ﾘｽﾄ[柱・梁・壁]	S=1/50
K - 12	基礎詳細図	S=1/50
K - 13	[RC壁]補強要領図（開口）	S=1/50
K - 14	[RC壁]補強詳細図（開口）	S=1/50
K - 15	[鉄骨ﾌﾞﾚｰｽ]補強要領図・各部詳細図	S=1/10、1/20、1/50
K - 16	[1連ﾌﾞﾚｰｽ]架構詳細図	S=1/50
K - 17	[1連ﾌﾞﾚｰｽ]補強詳細図（配筋）	S=1/50
K - 18	[2連ﾌﾞﾚｰｽ]架構詳細図	S=1/50
K - 19	[2連ﾌﾞﾚｰｽ]補強詳細図（配筋）	S=1/50
K - 20	[ﾌﾞﾚｰｽ]X4通り　部分詳細図	S=1/20
K - 21	[ﾌﾞﾚｰｽ]X2通り　部分詳細図	S=1/20

有限会社 安本設計事務所

2014年(H26).01

建 築 改 修 工 事 仕 様 書

Ⅰ．工 事 概 要

1．工 事 場 所　　倉吉市西倉吉町
2．敷 地 面 積　　－ ㎡
3．地 域 地 区　　都市計画地域（ ⊙内 ・ 外 ） ・ 市街化調整区域
　　用途地域等　（ 一種住居地域、22条地域 ）
4．建 物 概 要

番号	名 称	工事種別	構 造	階数	建築面積（㎡）	延べ面積（㎡）
①	特別教室棟	耐震及び老朽改修	RC	4	846.40	3,257.60

Ⅱ．建築改修工事仕様

1．共通仕様
（1） 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成２２年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）による。ただし、改修標準仕様書に規定されている項目以外は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築工事標準仕様書（建築工事編（平成２２年版）」以下、「標準仕様書」という。）による。
（2） 請負者は完了検査（中間検査含む）の検査には、特定行政庁（建築主事等）が求める検査に必要な資料等（報告書等）を用意すること。
（3） 電気及び機械設備工事を本工事に含む場合、電気及び機械設備工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。

2．特記仕様
（1） 項目は番号に○印のついたものを適用する。
（2） 特記事項は⊙印のついたものを適用する。
⊙印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。
⊙印と◎印のついた場合は共に適用する。
（3） 項目に記載［ ］の内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（ ）の内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（4） G印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（以下「グリーン購入法」という。）の特定調達品目を示す。
判断の基準は「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成２２年２月）」（環境省のホームページからダウンロード可能）による。
（5） 改修標準仕様書で「特記がなければ、」以降に具体的な材料・品質性能・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令の改正等により（条例を含む）抵触する場合には、関係法令等の遵守［１．１．１３］の規定を優先する。
（6） 材料及び製造所等の記載は順不同である。

章		項 目	特 記 事 項
1 一般共通事項	1	適用基準等	※ 建築工事標準詳細図　国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（平成２２年版）（以下「標準詳細図」という） ※ 建築改修工事監理指針（上巻・下巻）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成２２年版） ※ 工事写真の撮り方（改訂第三版）建築編　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ・ 建築工事監理指針（上巻・下巻）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成２２年版） ・
	2	官公庁その他への手続 [1．1．3]	工事の施工に伴い必要な官公署、その他への手続き、検査並びにその費用は、本工事請負者の負担とする
	3	電気保安技術者 [1．3．3]	工事現場において電気保安技術者は、鳥取県総務部営繕工事自家用電気工作物保安規定第５条に定める工事担当技術者の職務を補佐し、当該工事の工事期間中自家用電気工作物の保安の業務を行うものとする。
	4	工事安全計画書 [1．3．7]	建築工事安全施工技術指針及び建設公衆災害防止対策要綱を参考に、工事安全計画書を監督職員に提出する
	5	発生材の処理等 [1．3．8]	・ 引渡しを要するもの（ ） ・ 特別管理産業廃棄物（ ） 処理方法（ ） ・ 現場において再利用を図るもの（ ） ⊙ 再生資源化を図るもの ⊙コンクリート塊　・アスファルトコンクリート塊　・建設発生木材 ・ ＰＣＢ含有シーリング材の処理 ・第一次判定 現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の要否を判定する 採取箇所数　計　箇所 採取箇所　※図示 ・第二次判定 専門分析機関にてＰＣＢ含有量の分析を行う 分析個数　計　箇所 ・除去処理工事 除去範囲　※図示 ・ せっこうボードの処理 ・石綿含有せっこうボード　９章による ・ひ素・カドミニウム含有せっこうボード ・製造業者に回収委託 ・埋立処分（管理型最終処分場） 処分施設の名称・所在地（ ） ・ 石綿含有、ひ素・カドミウム含有以外のせっこうボード ・再資源化（再資源化施設）　・最終処分（管理型最終処分場） 処分施設の名称・所在地（ ）
	6	環境への配慮 [1．4．1]	化学物質を放散させる建築材料等 本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の１）から４）を満たすものとする １）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上げ塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する ２）接着剤及び塗料にトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する ３）接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する ４）１）の材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする ホルムアルデヒド放散量　規制対象外 ①建築基準法施行令第２０条の第７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第２０条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ホルムアルデヒド放散量　第三種 ①建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ②建築基準法施行令第２０条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料

1 一般共通事項

⑦ 材料の品質等 [1．4．2~5]

材料・機材等の品質及び性能
１）本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能有するものとする。
２）本工事に使用する材料のうち、３）に指定する材料の製造業者等は、次の（１）～（６）の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し）を監督職員に提出して承認を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承認を受けた場合はこの限りではない。
（１）品質及び性能に関する試験データが整備されていること
（２）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること
（３）安定的な供給が可能であること
（４）法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること
（５）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること
（６）販売、保守等の営業体制が整えていること
３）製造業者等に関する資料の提出を定める材料

床型枠用鋼製デッキプレート	オーバーヘッドドア
鉄骨柱下無収縮モルタル	防水剤
無収縮グラウト材	現場発泡断熱材
乾式保護材	フリーアクセスフロア
既成調合モルタル	可動間仕切
ルーフドレン	移動間仕切
吸水調整材	トイレブース
アルミニウム製建具	煙突用成形ライニング材
鋼製建具	天井点検口
鋼製軽量建具	床点検口
ステンレス製建具	グレーチング
錠前類	屋上緑化システム
クローザ類	トップライト
自動扉機構	エポキシ樹脂
自閉式上吊り引戸機構	ポリマーセメントモルタル
重量シャッター	既成調合目地材
軽量シャッター	鋳鉄製ふた

⑧ 特別な材料の工法　標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品等の指定工法による

9 調査のための破壊部分の補修 [1．5．3]　補修方法　※ 図示

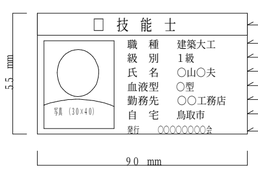
⑩ 技能士 [1．6．2]

下表により適用する技能士は、適用する工事作業中、１名以上の者が自ら作業をするとともに、他の技能者に対して、施工品質の向上を図るための作業指導を行うこと
（技能士：職業能力開発促進法による一級技能士又は単一等級の資格を有する者）
また、その技能士はその者が技能士であることがわかる名札（下図参考）を常時着用すること

工事種目	技能検定職種	技能検定作業
仮設工事	とび	⊙ とび作業
防水改修工事	防水施工 ○	・ アスファルト防水工事作業 ・ ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・ アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ・ 塩化ビニル系シート防水工事作業 ・ セメント系防水工事作業 ・ シーリング防水工事作業 ・ 改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ・ ＦＲＰ防水工事作業
外壁改修工事	樹脂接着剤注入施工	・ 樹脂接着剤注入工事作業
	左官	⊙ 左官作業
	タイル張り	・ タイル張り作業
建具改修工事	サッシ施工	・ ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	・ ガラス工事作業
	自動ドア施工	・ 自動ドア施工作業
内装改修工事	建築大工	⊙ 大工工事作業
	建築板金	・ 内外装板金作業
	内装仕上施工	・ 鋼製下地工事作業 ・ プラスチック系床仕上工事作業 ・ カーペット系床仕上作業 ・ ボード仕上工事作業
	表装	・ 壁装作業
	左官	⊙ 左官作業
	タイル張り	・ タイル張り作業
塗装改修工事	塗装	⊙ 建築塗装作業
耐震改修工事	別途仕様書による	
環境配慮改修工事	配管	・ 建築配管作業
	路面表示施工	・ 溶解ペイントマーカー工事作業
		・ 加熱ペイントマシンマーカー工事作業
	造園	・ 造園工事作業

ただし、倉吉市及び鳥取県中部地域に該当する技能士が不在の時は、発注者・監督職員と協議を行うこと。

《技能士名札参考図》



1 一般共通事項

⑪ 化学物質の濃度測定 [1．6．9]

図示した室のホルムアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼンの室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督職員に報告するパッシブ型採取機器を用いて、次の要領で測定及び分析を行う
⊙ パラクロロベンゼンを追加して分析を行う

パッシブ型採取機器を用いて測定を行う場合には、次の要領で測定及び分析を行う
①３０分間換気
測定対象室のすべての窓及び扉（造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む）を開放し、３０分間換気する
②５時間閉鎖
①の後、測定対象室すべての窓及び扉を５時間閉鎖する。ただし、造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放したままとする
③測定
イ ②の状態のままで測定する
ロ 測定時間は、原則として２４時間とする。ただし、工程等の都合により、２４時間測定が行えない場合は、８時間測定とする。なお、８時間測定の場合は、午後２時～３時が測定時間帯の中央となるよう、１０時３０分～１８時３０分までの時間帯で測定する
ハ 測定回数は１回とし、複数回の測定は不要とする
④分析
測定対象化学物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する
⑤その他
監督職員から測定方法に関する注意事項等の指示を受けること

⑫ 完成写真

下記のものを監督職員に提出する

区 分	分類・規格	撮影箇所	部数	原版の大きさ（mm）
※ 工事記録写真	カラーサービス判	各工種の工程毎	２部	⊙ ２４× ３６以上
※ 完成写真	カラーサービス判	⊙ 内部 各 箇所	２部	⊙ ２４× ３６以上
		⊙ 外部 ４ 箇所	２部	⊙ ２４× ３６以上
・	カラーキャビネ判	・ 内部 箇所	部	・ ２４× ３６以上
		・ 外部 箇所	部	・ ２４× ３６以上
・ パネル	カラー	・ 四ッ切 箇所	２部	・ １００×１２５以上
		・ 半切 箇所		・ ２４× ３６以上
		・ 全紙 箇所		

⊙ 電子データ~~スライド作成~~［工事記録写真］（ ⊙ 要 ・ 不要）
⊙ 電子データ~~スライド作成~~［完成写真］（ ⊙ 要 ・ 不要）

⑬ 完成時の提出図書 [1．8．1~2]

下記のものを監督職員に提出する
・ 原図Ａ１版又はＡ２版（設計図の第２原図訂正不可）　部
⊙ ＣＡＤデータ　１ 部
⊙ 原図の陽画複写紙の２つ折製本　２ 部
⊙ 原図の縮小版の陽画複写紙の２つ折製本（Ａ４版）　２ 部
・ 複写 縮小版Ａ３バラ焼　部

完成図の種類及び内容（改修前後の状態が分かるように整備すること）
⊙ 案内図・配置図 ： 配置図には外構整備、屋外給排水系統図含む
⊙ 改修概要図 ： 改修概要、部位等を表示する
⊙ 平面図 ： 室名、面積壁 ~~（防火壁）、避難施設等~~を表示する
⊙ 立面図 ： 外壁仕上、補修範囲等を表示する
・ 断面図 ： 階高、天井高等を表示する
⊙ 仕上表 ： 屋外、~~屋内（各階）の仕上表を表示する~~ 改修仕上表
・ 構造図 ： 杭、構造躯体等を表示する
・ その他 ：（ ）

⑭ 施工図及び施工計画書 [1．8．2]　提出した施工図及び施工計画書の著作に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする

⑮ 設備工事との取り合い　設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承認を受ける

設備工事との取り合い		建 築	電 気	機 械
⊙ コンクリート壁、床、梁貫通部	補強	※		
	開口		※	※
・ 鉄骨造の開口及び補強		※		
⊙ 照明器具・幹線等の吊りボルト			※	
・ 軽量鉄骨壁のボックス取付用下地			※	
・ 埋込分電盤・端子盤・プルボックスの取付及び埋込部分の補強	仮枠		※	
	補強	※		
・ ＯＡフロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強		※		
⊙ 埋込型機器取付用の天井壁の切込加工、下地の補強	切込		※	※
	補強	※		
・ 自動開閉装置を取付ける防火戸の切込み、補強及びドアクローザ、フロアヒンジ		※		
・ 電気室、自家発電室などの基礎及びピット（蓋を含む）		※		
・ テレビアンテナ	基礎	※		
	アンカーボルト		※	
⊙ 天井点検口		※		
・ 機器類のコンクリート基礎	屋内・屋外設置		※	※
	屋上設備	※		

⑯ 撤去部分　コンクリート、モルタル等の撤去部分の場目は、原則としてダイヤモンドカッター切りとする
ダイヤモンドカッター切り深さ（※３０mm程度 ・ ）

１７ 耐荷重及び耐外力　建築基準法に基づき定められた区分等
基準風速　Ｖo＝　ｍ／ｓ
地表面粗度区分 ・ Ⅰ ・ Ⅱ ・ Ⅲ ・ Ⅳ
積雪区分　建設省告示第１４５５号 別表（ ）

⑱ 保全に関する資料 [1．8．3]　下記のものをＪＩＳ Ａ４版ファイルに製本して監督職員に提出する。
⊙ 主な主要資材、機器等のメーカー及び施工者一覧表
⊙ 機器性能試験成績書及び取扱説明書
⊙ 保証書
⊙ 官公署届出書類（保守に必要とするもの）
⊙ 建築物の保守に関する説明書、指導案内書

⑲ 火災保険等　工事目的物及び工事材料等工事施工途中の事故に伴う損害を補てんするため火災保険等に加入する（保険の加入期間は、工事完成引き渡しまでとする）

⑳ 環境配慮　鳥取県公共工事環境配慮指針 ※ 対象工事 ・ 非対象工事

㉑ 建設リサイクル法　※ 対象工事 ・ 非対象工事

㉒ 鳥取県福祉のまちづくり条例　※ 対象工事 ⊙ 非対象工事

㉓ 鳥取県景観形成条例　※ 対象工事 ・ 非対象工事

㉔ バリアフリー法　※ 対象工事 ⊙ 非対象工事

㉕ 省エネ法　※ 対象工事 ⊙ 非対象工事

2 仮設工事

① 足場その他 [2．2．1]　足場を設ける場合は、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成２２年版２．２．４（ｂ）によるほか、設置においては「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の２の（２）手すり据置方式または（３）手すり先行専用足場方式により行うこと
・ 内部足場の種別　※ 脚立、足場板等 ・
⊙ 外部足場の種別　※ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種 ・ Ｄ種
⊙ 外部足場の防護シート　※ 設置する ・設置しない
材料、撤去材等の運搬方法 ・ Ａ種 ※ Ｂ種 ・ Ｃ種 ・ Ｄ種 ・ Ｅ種

② 既存部分の養生 [2．3．1]　養生方法　※ ビニルシート等による
・ 固定された家具等（備品、机，ロッカー等）の移動　※ 行う（図示）
・ 既存部分における既存家具等の養生　※ ビニルシート等による
・ 既存ブラインド、カーテン等の養生
保管場所 ※ 構内既存施設内 ・

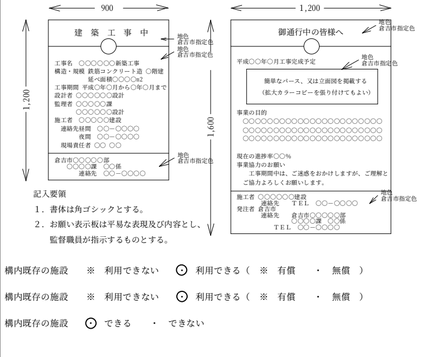
③ 仮設間仕切り [2．3．2]
・ Ａ種 ・ Ｂ種 ※ Ｃ種 ・ 図示
Ａ、Ｂ種の表面材　※ 石こうボード ・ 合板
Ａ、Ｂ種の片面への塗装等 ・ 行う ※ 行わない
Ａ種のグラスウール等の充填材
※ 行う（ＪＩＳ Ａ ６３０１グラスウール吸音材２号３２Ｋ厚５０mm）
⊙ 行わない
仮設扉 ・設置する（ か所） ・設置しない
（ ※ 木製 ・ ）

④ 監督職員事務所 [2．4．1]
※ 設けない
・ 既存建物内の一部を使用する（場所 ）
・ 構内に新設する 規模（ ㎡ ）

⑤ 表示板

（マーク）

◎ 工事表示板　⊙ お願い表示板


900
1,200
建 築 工 事 中
工事名 ○○○○○○新築工事
構造・規模 鉄筋コンクリート造 ○階建
延べ面積○○○○㎡
工事期間 平成○年○月から○年○月まで
設計者 ○○○○設計
監理者 ○○○○○課
○○○○○○設計
施工者 ○○○○建設
連絡先担当 ○○－○○○○
携帯 ○○－○○○○
現場責任者 ○○ ○○
倉吉市○○○○○課
○○○○○課 ○○係
連絡先 ○○－○○○○
警告 倉吉市指定色
1,200
1,600
御通行中の皆様へ
平成○○年○月工事完成予定
簡単なパース、又は立面図を掲載する
（拡大カラーコピーを張り付けてもよい）
事業の目的
○○○○○○○○

③ 防水改修工事

4 改質アスファルトシート防水 [3．1．4] [3．2．6] [3．4，2~4]

材料　種類及び厚さ　※　図示　　[表3．4，1~2]

工　法	新設防水層の種別	施工箇所	備考
・　P0AS工法	・　AS－4　・　AS－5 ・　AS－6		
・　M3AS工法	・　AS－4　・　AS－5 ・　AS－6		
・　M4AS工法	・　AS－1　・　AS－2 ・　AS－1		下地処理 [3．2．6(2)]
・　P0ASI工法	・　ASI－1　・　ASI－2		
・　M3ASI工法	・　ASI－1　・　ASI－2		
・　M4ASI工法	・　ASI－1　・　ASI－2		

脱気装置　※　設ける（設置数量　　か所）　・　設けない

防湿層（M3ASI工法、M4ASI工法、P0ASI工法）　※設ける　・　設けない

5 合成高分子系ルーフィングシート防水 [3．1．4] [3．2．6] [3．5，2~4]

材料　※　図示

厚さ　S－F1、S－M3　※1．2㎜

　　S－F2　※2．0㎜

　　S－M1、S－M2　※1．5㎜

絶縁用シートの材質　※発泡ポリエチレンシート　　[表3．5．1]

工　法	新設防水層の種別	施工箇所	備考
・　P0S工法			
・　P0SI工法			
・　S3S工法			
・　S3SI工法			
・　S4S工法			
・　S4SI工法			
・　M4S工法			
・　M4SI工法			

S－F1、SI－F1、S－M1、SI－M1の仕上塗料塗り　※　シルバー　・　カラー

SI工法の断熱材（特定フロンを含まないもの）G

　材質　※　押出法ポリスチレンフォーム3種bスキン層付（JISA9511）

　厚さ　※　25㎜

機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け

　※　建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画書として提出する。

脱気装置　※　設ける（設置数量　　か所）　・　設けない

6 塗膜防水 [3．1．4] [3．2．6] [3．6，2~4]　　[表3．6，1]

工　法	新設防水層の種別	施工箇所	備考
・　P0X工法	※　X－1		
⊙　L4X工法	※　X－2	切断統（音楽室）部位	

新設防水層種別X－1の場合の脱気装置

　※　設ける　　種類、設計数量　※　主材料製造所の仕様による

　・　設けない

L4X工法の既存仕上げ塗装除去　※　行う　・　行わない

7 脱気装置 [表3．7，1]

種類	材質	設置数量
・　平面部脱気型	・　ポリエチレン樹脂　・　ABS樹脂 ・　ステンレス　・　鋳鉄	（　）㎡あたり1箇所
・　立上り部脱気型	・　合成ゴム　・　塩化ビニル樹脂 ・　ステンレス　・　鋼	（　）㎡あたり1箇所
・　製造所の仕様による	・　製造所の仕様による	（　）㎡あたり1箇所

8 シーリング [3．1．4] [3．7，2~8]　　[表3．1，2]

シーリング改修工法の種類

・　シーリング充てん工法

⊙　シーリング再充てん工法

・　拡幅シーリング再充てん工法

・　ブリッジ工法

　ボンドブレーカー張り　・　適用する

　エッジング張り　・　適用する

シーリング用材料

　種類及び施工箇所　図示以外は［表3．7，1］による

　シーリング面への仕上塗材仕上げ等　※　行わない　・　行う

目地寸法

　コンクリート打継目地及び誘発目地　※　幅20㎜、深さ10㎜

　ガラス回り目地　※　幅・深さとも5㎜

　上記以外の箇所の目地　※　幅・深さとも10㎜

接着性試験　※　簡易接着性試験　・　引張接着性試験　⊙　行わない

9 とい [3．8，2]

材種　※　配管用鋼管　⊙　硬質ポリ塩化ビニル管（VP）（ｶﾗｰ）

　・　リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（RF－VP）G

　　色：アイボリー

　　建物内外での硬質塩化ビニル管であって使用済み塩化ビニル管を原料とする塩化ビニルが製品全体重量比で30％以上使用されていること。

鋼管製といの防露　※　行う（施工箇所　※［表3．8，5］）

　・　行わない

　ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒドの放散量

　※　規制対象外　・　第三種

とい受け金物　※　［表3．8，2］

10 鋼管製といの防露巻工法部等の処理 [3．8，3]

防露部　ステンレス（SUS304、厚0．2㎜）で被覆する　[表3．8，5]

　高さ（㎜）　床　※　150　・

　天井　※　30　・

防露を行わない場合　ステンレス製シーリングブレートを取付る（床、天井共）

11 アルミニウム製笠木 [3．9，2~3]　　[表3．9，1]

※　押出し形材　部材の種類　・　250形（呼称肉厚は1．6㎜以上）

　・　300形（呼称肉厚は1．8㎜以上）

　・　350形（呼称肉厚は2．0㎜以上）

　・　400形（呼称肉厚は2．5mm以上）

　表面処理　※　A－1種又はB－1種

　・　B－2（・　アンバー　・　ブロンズ　・　ブラック系

　・　ステンカラー）

　隅角部及び突当り部等の役物　笠木製造所の仕様による

・　曲げ材　材質　JIS　H4000による

　厚さ（㎜）　※　2．0　・

　表面処理　※　A－1種又はB－1種

　・　B－2（・　アンバー　・　ブロンズ　・　ブラック系

　・　ステンカラー）

　形状及び取付方法　図示による

工法

　既存笠木等の撤去　・　行う（範囲　※　図示　・　　）

　下地補修の工法　※　図示

　笠木の固定金具の工法

　※　建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法を施工計画書として提出する。

④ 1 外壁改修工事（共通事項）

① 施工数量調査 [1．5．2]

調査範囲　※　外壁（庇共）　・　図示　・

調査方法　※　テストハンマーによる打診及び目視　・

外壁調査は、外壁改修フローに対応する外壁面のひび割れ、浮き、欠損部、内部まで貫通したひび割れ及び雨漏りの有無についての位置及び数量（幅、長さ、面積）の調査を行う

また、その報告書は、結果を立面図等に記載し集計表を添えて監督職員に2部提出する（必要に応じて写真等を添付する）

② 可とう性エポキシ樹脂 [4．2．2]

品質性能等

　比重：表示値±0．10、押出し性：60秒以下

　スランプ：3㎜以下、加熱減量：5％以下

　引張強さ：常温物性1．0N／㎟以上、低温性1．0N／㎟以上、加熱劣化1．0N／㎜　以上

　伸び：常温物性30％以上、低温性30％以上、加熱劣化30％以上

　引張接着性最大引張応力：常温物性1．0N／㎟以上

　破断時の伸び：常温物性10％以上

　1）均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

　2）対象とする被着体を浸さず、かつ周囲を汚損しないこと。

　3）常温・常湿（温度5～35℃、湿度45～85％）において製造後6ヶ月保存したのちにあっても、上記品質基準の各項目に適合していること。

③ ポリマーセメントモルタル [4．2．2]

品質性能等

　だれ　下がり量：5㎜以内、表面状態：ひび割れの発生がないこと

　曲げ強さ：6．0N／㎟以上、圧縮強さ：20．0N／㎟以上

　接着性　標準時：1．0N／㎟以上、湿潤時：0．8N／㎟以上、低温時0．5N／㎟　以上

　透水性：裏面ぬれ、水滴の付着がないこと

　1）均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

　2）ポリマーセメントモルタルに用いる高分子エマルションは、常温常湿において製造後6ヶ月保存しても変質がないこと。

4 パテ状エポキシ樹脂 [4．2．2]

品質性能等

　初期硬化性（標準）：2．0N／㎟　以生、接着強さ（標準）6．0N／mm2以上

　圧縮強さ：50．0N／mm2以上、曲げ強さ：30N／mm2以上、硬化収縮率：3．0％以下

　1）均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

　2）対象とする被着体を浸さず、かつ周囲を汚損しないこと。

　3）常温・常湿（温度5～35℃、湿度45～85％）において製造後6ヶ月保存したのちにあっても、上記品質基準の各項目に適合していること。

5 エポキシ樹脂モルタル [4．2．2]

品質性能等

　接着強さ：1．0N／mm2以上

　曲げ強さ：3日後の値　10N／㎟　以上

　1）こて塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上がりが良好であること。

　2）均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

　3）「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。

　4）形状に異常がなく、だれが生じないこと。

　5）常温・常湿（温度5～35℃、湿度45～85％）において製造後6ヶ月保存したのちにあっても、上記品質基準に適合していること。

6 ポリマーセメントスラリー [4．2．2]

品質性能等

　注入試験：拡がり速さ3㎝／s以上、粘調係数0．5～1．0

　保水試験：保水係数0．35～0．55

　長さ変化試験：長さ変化率3％以下（収縮）

　引張接着強さ：0．5N／㎟　以上（28日材齢）

　曲げ強度：5．0N／㎟　以上（28日材齢）

　吸水率：15％以下（72時間）

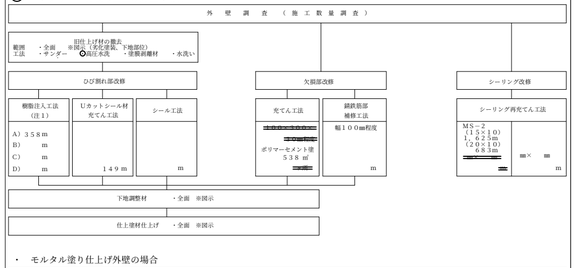
　劣化曲げ強さ：5．0N／㎟　以上

7 吸水調整材 [4．2．2]

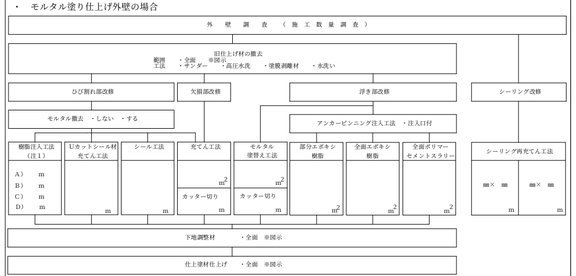
表4．2．2による

外壁改修フロー及び数量

⊙　コンクリート打放し仕上げ外壁の場合



・　モルタル塗り仕上げ外壁の場合



・　タイル張り仕上げ外壁の場合

（注1）ひび割れ幅（㎜）がA）0．2以上1．0未満、B）0．2以上0．3未満、C）0．3以上0．5未満、D）0．5以上1．0未満を示す

④ 2 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）

① ひび割れ部改修工法 [4．1．4] [4．3，2，4~6]

㉕　樹脂注入工法

種類	ひび割れ幅（㎜）	注入口間隔（㎜）	注入量（cc／m）
※　自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0．2以上1．0未満	200～300	※　・
・　手動式エポキシ樹脂注入工法	0．2以上0．3未満	50～100	※　40　・
・　機械式エポキシ樹脂注入工法	0．3以上0．5未満	100～200	※　70　・
	0．5以上1．0未満	150～250	※　130　・

検査（コア抜き取り）　・　行う（補修方法：ポリマーセメントモルタル充填）　※　行わない

注入材料

　※　建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS　A6024）による低粘度形又は中粘度形

　・　軟質形エポキシ樹脂の中粘度型又は低粘度型

⊙　Uカットシール材充填工法

　カット部充填材

　　※　可とう性エポキシ樹脂

　　・　シーリング用材料　（※　ポリウレタン系　・　　）

　　シーリング材のうえにポリマーセメントモルタル充填　※　行う　・　行わない

・　シール工法

　ひび割れ部シール材

　　※　パテ状エポキシ樹脂　・　可とう性エポキシ樹脂

② 欠損部改修工法 [4．1．4] [4．3，3，4，3，7]

※　充填工法

　欠損部充填材

　　※　ポリマーセメントモルタル　・　エポキシ樹脂モルタル

・

④ 3 外壁改修工事（モルタル塗仕上げ外壁）

1 ひび割れ部改修工法 [4．1．4] [4．4，2，4，4，5~9]

※　モルタルを撒去して改修　（範囲は図示。撒去後の補修は充てん工法［4．4，8］による）

　※　樹脂注入工法

種類	ひび割れ幅（㎜）	注入口間隔（㎜）	注入量（cc／m）
※　自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0．2以上1．0未満	200～300	※　・
・　手動式エポキシ樹脂注入工法	0．2以上0．3未満	50～100	※　40　・
・　機械式エポキシ樹脂注入工法	0．3以上0．5未満	100～200	※　70　・
	0．5以上1．0未満	150～250	※　130　・

検査（コア抜き取り）　・　行う（補修方法：ポリマーセメントモルタル充填）　※　行わない

注入材料

　※　建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS　A6024）による低粘度形又は中粘度形

　・　軟質形エポキシ樹脂の中粘度型又は低粘度型

・　Uカットシール材充填工法

　カット部充填材

　　※　可とう性エポキシ樹脂

　　・　シーリング用材料　（※　ポリウレタン系　・　　）

　　シーリング材のうえにポリマーセメントモルタル充填　※　行う　・　行わない

・　モルタルを撒去しないで改修

　※　樹脂注入工法

種類	ひび割れ幅（㎜）	注入口間隔（㎜）	注入量（cc／m）
※　自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0．2以上1．0未満	200～300	※　・
・　手動式エポキシ樹脂注入工法	0．2以上0．3未満	50～100	※　40　・
・　機械式エポキシ樹脂注入工法	0．3以上0．5未満	100～200	※　70　・
	0．5以上1．0未満	150～250	※　130　・

検査（コア抜き取り）　・　行う（補修方法：ポリマーセメントモルタル充填）　※　行わない

注入材料

　※　建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS　A6024）による低粘度形又は中粘度形

　・　軟質形エポキシ樹脂の中粘度型又は低粘度型

・　シール工法

　ひび割れ部シール材

　　※　パテ状エポキシ樹脂　・　可とう性エポキシ樹脂

2 欠損部改修工法 [4．1．4] [4．4，3，4，3，7] [4．4，8，4，4，9]

※　充填工法（欠損部の面積が0．25㎡／箇所程度以下の場合）

　欠損部充填材

　　※　ポリマーセメントモルタル　・　エポキシ樹脂モルタル

・

3 浮き部改修工法 [4．1．4] [4．4，4，10~15] [4．4，8，4，4，9]

［4．1．4］［4．5．9~15］［表4．4．3，4］

改修工法の種類（モルタルを撒去しない場合）	アンカーピンの本数（本／㎡）		注入口の箇所数（箇所／㎡）		充填量又は注入量（箇所／mL）
	一般部	指定部	一般部	指定部	
・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・	＿＿＿ ・	＿＿＿ ・	※25 ・
・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25 ・
・アンカーピンニング 全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50 ・
・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	＿＿＿ ・	＿＿＿ ・	※25 ・
・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・
・注入口付アンカーピンニング 全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・

アンカーピン　［4．2．2］

　材質　※ステンレス鋼（SUS304）、呼び径4㎜の丸棒で全ねじ切り加工したもの

　・

注入口付アンカーピン　［4．2．2］

　材質　※ステンレス鋼（SUS304）、呼び径外径6㎜

　・

④ 4 外壁改修工事（タイル張り仕上げ外壁）

1 タイル張替え工法用材料 [4．2．2]

タイルの形状、寸法等

主な用途による区分	形状寸法（㎜）	再生材の適用 G	吸水率による区分 I類	II類	III類	曲げ強さ	うわぐすり なし	あり	役物 なし	あり	色 標準	特注	耐凍害性 あり	なし	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、あらかじめ監督職員の承諾を受けること

役物使用箇所　※各部の形状は図示による

内装	（標準一体成型品以外は接着成型品とする）
外装	出隅、天端出隅、窓台、マグサ

タイルの試験張り　※　行わない　・　行う（　　）

タイルの見本焼き　※　行わない　・　行う（　　）

有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量　※　規制対象外　・　第三種

2 ひび割れ部改修工法 [4．1．4] [4．5．2，5~7]

※　タイルを撒去して改修　（撤去後の補修はタイル部分張替え工法による）

　※　樹脂注入工法

種類	ひび割れ幅（㎜）	注入口間隔（㎜）	注入量（cc／m）
※　自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0．2以上1．0未満	200～300	※　・
・　手動式エポキシ樹脂注入工法	0．2以上0．3未満	50～100	※　40　・
・　機械式エポキシ樹脂注入工法	0．3以上0．5未満	100～200	※　70　・
	0．5以上1．0未満	150～250	※　130　・

注入材料

　※　建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS　A6024）による低粘度形又は中粘度形

　・　軟質形エポキシ樹脂の中粘度型又は低粘度型

・　Uカットシール材充填工法

　カット部充填材

　　※　可とう性エポキシ樹脂

　　・　シーリング用材料　（※　ポリウレタン系　・　　）

　　シーリング材のうえにポリマーセメントモルタル充填　※　行う　・　行わない

・　タイルを撒去しないで改修

　※　樹脂注入工法

種類	ひび割れ幅（㎜）	注入口間隔（㎜）	注入量（cc／m）
※　自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0．2以上1．0未満	200～300	※　・
・　手動式エポキシ樹脂注入工法	0．2以上0．3未満	50～100	※　40　・
・　機械式エポキシ樹脂注入工法	0．3以上0．5未満	100～200	※　70　・
	0．5以上1．0未満	150～250	※　130　・

注入材料

　※　建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS　A6024）による低粘度形又は中粘度形

　・　軟質形エポキシ樹脂の中粘度型又は低粘度型

3 欠損部改修工法 [4．1．4] [4．5．3，7~8]

・タイル部分張替え工法（欠損部の面積が0．25㎡／箇所以下の場合及び下地モルタルがある場合）

　接着材の種類

　　※　ポリマーセメントモルタル

　　・　変成シリコン樹脂及びポリウレタン樹脂

・　タイル張替え工法（下地モルタルを撒去する場合）

　既製調合モルタル（張り付け用に使用する場合）

　伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

　　位置　※　表4．5．1による　・　図示

4 浮き部改修工法 [4．1．4] [4．5．4，7~15]

［4．1．4］［4．5．9~15］［表4．4．3，4］

改修工法の種類（モルタルを撒去しない場合）	アンカーピンの本数（本／㎡）		注入口の箇所数（箇所／㎡）		充填量又は注入量（箇所／mL）
	一般部	指定部	一般部	指定部	
・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・	＿＿＿ ・	＿＿＿ ・	※25 ・
・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25 ・
・アンカーピンニング 全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50 ・
・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	＿＿＿ ・	＿＿＿ ・	※25 ・
・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・
・注入口付アンカーピンニング 全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・

アンカーピン　［4．2．2］

　材質　※ステンレス鋼（SUS304）、呼び径4㎜の丸棒で全ねじ切り加工したもの

　・

注入口付アンカーピン　［4．2．2］

　材質　※ステンレス鋼（SUS304）、呼び径外径6㎜

　・

5 タイル張り [4．5．7] [4．5．8]

壁タイル張り工法

　外装タイル　※　密着張り　・　改良積上げ張り　・　改良圧着張り

　外装ユニットタイル　・　マスク張り　・モザイクタイル張り

　タイルの試験張り　※　行わない　・行う

6 目地改修工法 [4．1．4] [4．5．16]

・　目地ひび割れ改修工法

・　伸縮目地改修工法　位置及び寸法　※　図示

MEMO

有限会社 安本設計事務所
建築士事務所登録 第385号

TITLE　西中学校特別教室棟耐震補強（建築主体）工事　設計図

NAME　建築改修工事仕様書（2）

SCALE　—

管理建築士　湯本藤雄
（一級建築士登録第168673号）

DRAW	CHIEF	HEAD	DATE	図面－A
	藤	藤	2014，01	No－2／76

④ 5 外壁改修工事（塗仕上げ外壁）

① 既存塗膜等の除去及び下地処理 [4. 6. 3]

塗膜はく離材　製造所（　　）

防火材料の指定箇所　（　　）

既存塗膜の劣化部の除去及び下地の処理の工法

- ・ サンダー工法　処理範囲　※ 既存仕上げ面全体　・ 図示の範囲
- ※ 高圧水洗工法　処理範囲　※ 既存仕上げ面全体　・ 図示の範囲
  - ⊙ ３０ＭＰａ以上　・ ５０ＭＰａ以上　・ １００ＭＰａ以上）
- ・ 塗膜はく離剤工法 —— 処理範囲　※ 既存仕上げ面全体　・ 図示の範囲
- ・ 水洗い工法 —— 処理範囲　※ 上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体
  - ・ 図示の範囲

下地調整材料　㊞ 下地調整塗材　⊙ ポリマーセメントモルタル　⊙ 防水形仕上塗材主材

② 仕上塗材仕上げ [4. 1. 4] [4. 2. 2]

⊙ 薄付け仕上塗材 [表4. 2. 3~4]

種類	仕上げの形状	工法
⊙外装薄塗材Ｅ（防水形）	・砂壁状 ・着色骨材砂壁状	吹付け

・ 厚付け仕上塗材

種類	仕上げの形状		工法	上塗材
・外装厚塗材Ｅ	スタッコ状	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・行う ・行わない

⊙ 複層仕上塗材

種類	仕上げの形状	工法	上塗材（耐候性　耐候形３種）		
※複層塗材Ｅ	※凹凸模様	吹付け	※水系	※アクリル系	※つやあり
・可とう性複層塗材ＣＥ ・複層塗材Ｓｉ ・複層材ＣＥ ・複層塗材ＲＥ ・複層塗材ＲＳ ・防水形複層塗材ＣＥ ⊙防水形複層塗材Ｅ ・防水形複層塗材ＲＥ ・防水形複層塗材ＲＳ	⊙凹凸模様 ・凸部処理 ・ゆず肌状	吹付け 吹付け ローラー	⊙水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系	⊙アクリル系 ・ポリウレタン系 ・アクリルシリコン系 ・フッ素系 ・シリカ系	⊙つやあり ・つやなし ・メタリック ・軽量骨材仕上塗材

・ 可とう形改修用仕上げ塗材

種類	仕上げの形状	工法	上塗材（耐候性　耐候形３種）		
・可とう形改修塗材Ｅ ・可とう形改修塗材ＲＥ ・可とう形改修塗材ＣＥ	・平たん状 ・さざ波 ・ゆず肌状	ローラー 吹付け	・水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系	・アクリル系 ・ポリウレタン系 ・アクリルシリコン系 ・フッ素系	※つやあり

・ 軽量骨材仕上塗材

種類	仕上げの形状	工法
・吹付用軽量塗材	砂壁状	吹付け
・こて塗用軽量塗材	平たん状	こて塗り

吹付けこて塗り建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外　・ 第三種

⑤ 建具改修工事

1 改修工法 [5. 1. 3]

※ かぶせ工法（・ カバー工法　・ 持出し工法 ）
・ 撤去工法　（・ はつり工法　・ 引抜工法 ）

2 防火戸 [5. 1. 4]

防火戸の指定の有無　・あり（位置・仕様：図示）　・なし

3 建具見本の製作 [5. 1. 5]

※ 製作しない　・ 製作する

4 防犯建物部品 [5. 1. 7]

・ 適用する（　　）

5 アルミニウム製建具 [5. 2. 2~5]

外部に面する建具の性能等級等　[表5. 2. 1~2]

種別	※ Ａ種	・ Ｂ種	・ Ｃ種
耐風圧性	※ Ｓ－４	・ Ｓ－５	・ Ｓ－６
気密性	※ Ａ－３		・ Ａ－４
水密性	※ Ｗ－４	・ Ｗ－５	・ Ｗ－５
枠見込み（㎜）	・ ７０	・ １００	１００
表面処理	※ Ｂ－１種 ・ Ｂ－２種 （ ・ アンバー　・ ブロンズ　・ ステンカラー　・ ブラック）		

防音ドアセット、防音サッシの遮音性の等級　・ Ｔ－１　・ Ｔ－２　・ Ｔ－３
断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級　・ Ｈ－１　・ Ｈ－２　・ Ｈ－３
網戸等
　防虫網の材質　・ ステンレス製（ＳＵＳ３１６）　※ ガラス繊維入り合成樹脂製　・ 合成樹脂製
　防鳥網の材質　※ ステンレス製（ＳＵＳ３０４）線材　径１．５㎜　ピッチ１５㎜
外部に面する建具以外の建具　表面処理　※Ｃ－１種又はＢ－１種
※製造所　建築材料・設備機材等品質性能評価事業　建築材料等評価名簿に記載されている製造所

6 鋼製建具 [5. 1. 4] [5. 3. 2~5]

外部に面する建具の耐風圧性の等級　・ Ｓ－４　・ Ｓ－５　・ Ｓ－６
防音ドアセット、防音サッシの遮音性の等級　・ Ｔ－１　・ Ｔ－２　・ Ｔ－３
断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級 Ｇ　・ Ｈ－１　・ Ｈ－２　・ Ｈ－３
耐震ドアセットの面内変形追従性の等級
防火戸　煙感知器連動とする　防火戸の解錠機構は別途とする
　扉にラッチ受座用切込み開口補強を行う

7 鋼製軽量建具 [5. 4. 2~5]

外部に面する建具の耐風圧性の等級　・ Ｓ－４　・ Ｓ－５　・ Ｓ－６
防音ドアセット、防音サッシの遮音性の等級　・ Ｔ－１　・ Ｔ－２　・ Ｔ－３
断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級 Ｇ　・ Ｈ－１　・ Ｈ－２　・ Ｈ－３
耐震ドアセットの面内変形追従性の等級
防火戸　煙感知器連動とする　防火戸の解錠機構は別途とする
　扉にラッチ受座用切込み開口補強を行う
戸の鋼板
※ 表面処理亜鉛めっき鋼板　・ ビニル被覆鋼板　・ カラー鋼板

[表5. 4. 1]

区分	材質
召合わせ、縦小口包み板	・ 鋼板　※ ステンレス　・ アルミニウム
扉の表面板、押縁	※ 鋼板　・ ビニル被覆鋼板
枠類	※ 鋼板（くつずりはステンレス）　・ 製作所仕様

8 ステンレス製建具 [5. 5. 2~5]

外部に面する建具の耐風圧性の等級　・ Ｓ－４　・ Ｓ－５　・ Ｓ－６
防音ドアセット、防音サッシの遮音性の等級　・ Ｔ－１　・ Ｔ－２　・ Ｔ－３
断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級　・ Ｈ－１　・ Ｈ－２　・ Ｈ－３
耐震ドアセットの面内変形追従性の等級
ステンレス鋼板（屋外）　※ ＳＵＳ４３０Ｊ１Ｌ　・ ＳＵＳ３０４
ステンレス鋼板（屋内）　※ ＳＵＳ４３０　・ ＳＵＳ４３０Ｊ１Ｌ　・ ＳＵＳ３０４
表面仕上げ　※ ＨＬ仕上げ
曲げ加工　※ 普通曲げ　・ 角出し曲げ（ ・ ａ角　・ ｂ角　・ ｃ角）

9 鍵 [5. 6. 4]

マスターキー　・ 製作する（　　組）　・ 製作しない　・ 既存に組込む
鍵箱　・ 設ける（　　個用　組）　・ 設けない

10 自動ドア開閉装置 [5. 7. 3]

センサーの種類　[表5. 7. 3]
※ 光線（反射）　・ マット　・ 電波　・ 音波　・ 熱線　・ 光電
・ タッチ　・ ペダル　・ 押しボタン　・ 多機能便所
取付位置　・ 床面　※ 天井面　・ 壁面　・ 無目
凍結防止措置　※ 行わない　・ 行う（適用箇所は建具表による）

11 自閉式上吊り引戸装置 [5. 8. 2~4]

自閉式上吊り引戸装置の性能　※ 表５．８．１による　[表5. 8. 1]

12 重量シャッター [5. 9. 2~5]

種類　・ 一般　・ 外壁用防火　・ 屋内用防火　・ 屋内用防煙
防火又は、防煙シャッターは、自動閉鎖装置及び随時閉鎖装置付とし、連動制御盤及び煙感知器は別途とする
耐風圧強度　一般（　　）Ｎ／㎡　外壁用（　　）Ｎ／㎡
開閉機能による種類　※ 上部電動式（手動併用）　・ 上部手動式　[表5. 9. 1]
シャッターケース（防火、防煙以外）　※ 設ける　・ 設けない

13 軽量シャッター [5. 10. 2~5]

開閉形式　※ 手動式　⊙ 上部電動式（手動併用）　[表5. 10. 1]
耐風圧強度　（　　）Ｎ／㎡
スラットの材質　※ ＪＩＳＧ３３１２（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）又は、
　ＪＩＳＧ３３１８（塗装溶融亜鉛－５%アルミニウム合金鋼板及び鋼帯）
スラットの形状　※ インターロッキング形　・ オーバーラッピング形
シャッターケース　※ 設ける　・ 設けない
ガイドレールの材質　※ ステンレス製（ＳＵＳ３０４）厚さ１．５㎜（ ※ 中柱共　・　　）
座板（屋外の場合）　※ ステンレス製既製品　・

14 オーバーヘッドドア [5. 11. 2~5]

セクション材料による区分　※ スチールタイプ　・ アルミニウムタイプ　・ ファイバーグラスタイプ
耐風圧性能　・ ５００Ｐａ　・ ７５０Ｐａ　・ １０００Ｐａ　・ １２５０Ｐａ　・ １７００Ｐａ
開閉形式による区分　※ バランス式　・ チェーン式　・ 電動式
収納形式による区分　・ スタンダード形　・ ローヘッド形　・ ハイリフト形　・ バーチカル形
ガイドレールの材質　※ 溶融亜鉛めっき鋼板　・ ステンレス製（ＳＵＳ３０４）厚さ２．０㎜

15 ガラス

・ 合わせガラス

品種	構成種類	性能
※ フロート合わせガラス	※ フロート板合わせガラス ・ 熱線吸収、フロート板合わせガラス	・ Ⅰ類
・ 網入合わせガラス	・ 網入り、フロート板合わせガラス ・ 網入り、熱線吸収板合わせガラス	・ Ⅱ－１類　・ Ⅱ－２類 ・ Ⅲ類

・ 強化ガラス

材料板ガラスによる種類	種類	性能
※ フロートガラス	※ フロート強化ガラス ・ 熱線吸収強化ガラス	・ Ⅰ類　・ Ⅱ類
・ 型板ガラス	※ 型板強化ガラス	

・ 複層ガラス

品種	断熱性	日射遮へい性
・ 断熱複層ガラス	・ １種	Ｕ１
	・ ２種	Ｕ２
	・ ３種	・ Ｕ－３－１　・ Ｕ－３－２
・ 日射熱遮へい複層ガラス	・ ４種	Ｅ４
	・ ５種	Ｅ５

・ 熱線反射板ガラス

品種	色調
※ 熱線反射ガラス	・ ブルー　・ グレー
・ 高性能反射板ガラス	・ ブロンズ　・ シルバー

品種	日射遮へい性	耐久性	ガラスの種類
※ 熱線反射ガラス	・ １種	Ａ種	
・ 高性能反射板ガラス	・ ２種	・ Ａ種　・ Ｂ種	
	・ ３種	Ｂ種	

反射皮膜面　※ 内面　・ 外面
映像調整　※ 行わない　・ 行う

・ 倍強度ガラス

材料板ガラスによる種類の名称	色調
※ 倍強度ガラス	
・ 倍強度熱線吸収ガラス	・ グレー　・ブルー　・ ブロンズ　・

16 ガラス留め材 [5. 12. 2]

[表3, 7, 1]

建具の種類	材種
鋼製	※ シーリング材
アルミニウム製	※ シーリング材　・ ガスケット（グレイジングチャンネル形）
ステンレス製	※ シーリング材
木製	※ シーリング材

防火戸のガラスとめ材は、建築基準法に基づく防火性能の認定を受けた条件による

17 ガラスブロック積み [5. 12. 5]

製造所　ＪＩＳＡ５２１２によるもの

寸法（㎜）	厚さ（㎜）	表面形状

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画書として提出する。

18 ガラス用フィルム

名称	種類	張り面	性能値
※ガラス飛散防止フィルム	第２種	※ 内張り　・ 外張り	飛散防止率　Ｄ１

品質　ＪＩＳ　Ａ５７６９による。

19 付属電気設備

自動扉、電動シャッター、電動オーバーヘッドドアの電動機が三相電動機０．４ＫＷ以上の場合は、機器付属の操作盤内に電動機保護用遮断機及び進相用コンデンサーを設置する。

20 木製建具 (16. 6. 1~4)

木材の含水率　・ Ａ種　※ Ｂ種　・ Ｃ種　・ Ｄ種
建物内部の木製建具に使用する表面材及びホルムアルデヒド水溶液を用いた建具用でん粉系接着剤のホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・ 第三種
ふすまの材料　種別　※ 表１６．６．３のⅡ型
　上張り紙　※ ビニル紙　・ 新鳥の子
　押入等の裏側　※ 雲花紙
　縁仕上　・ 塗り縁　・ 生地縁（素地）　・ 生地縁（ウレタンクリアー塗装）
枠及びくつずり材料　※ 図示による

⑥ 内装改修工事

① 他の部分との取り合い [6. 1. 3]

・ 既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁面及び床の改修範囲
※ 壁厚程度とし、既存に準じた仕上げとする　⊙ 図示
・ 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲
※ 壁面より両側６００㎜程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う　⊙ 図示
・ 天井の撤去に伴う取り合い部の壁面の改修
※ 既存のまま　⊙ 図示

② 既存床仕上げ材の除去等 [6. 2. 2]

ビニル床シート等の撤去
※ 仕上げ材のみ（接着剤共）　・ 下地モルタル共（※ 図示の範囲　・ 除去範囲全て）
合成樹脂塗床材の除去
⊙ 機械的除去工法　・ 目荒し工法
改修後の床の清掃範囲
※ 改修部の端部より１ｍ程度　・ 図示

③ 既存壁の撤去並びに下地補修 [6. 3. 2] [4. 4. 9]

間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修
※ モルタル塗り（塗厚２５㎜を超える場合の補修　※ 行う　・ 行わない）

④ 木材 Ｇ [6. 5. 1] [6. 5. 2]

表面仕上げの程度　・ Ａ種　※ Ｂ種　・ Ｃ種
代用樹種を使用できない箇所（　　）
保存処理木材　・ 使用する（使用箇所　　）
間伐材等　・ 使用する（使用箇所　　）
現場搬入時の木材の含水率　※ Ａ種　・ Ｂ種
造作材の材面の品質の基準　※ Ａ種　・ Ｂ種
構造材及び下地材の品質の基準　※ ６．５．２（２）（ⅲ）による
樹種
※図示による　［ 代用樹種の使用 ： ※ 認めない　・ 認める（監督職員と協議要） ］
※木材のうち、杉、桧及び松は、「鳥取県産材産地証明制度」の認証を受けたものを使用する。

⑤ 集成材等 Ｇ [6. 5. 2]

ホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・ 第三種

・ 構造用集成材

施工箇所	強度等級	材面の品質	使用環境	樹種名	寸法（㎜）	間伐材等の適用
		・ １種　※ ２種 ・ ３種	・ １ ・ ２			・

・ 構造用単板積層材

施工箇所	区分	使用環境	曲げ性能	水平せん断性能	樹種名	寸法（㎜）	間伐材等の適用
	・ 特級　・ １級 ・ ２級	・ １ ・ ２					・

・ 造作用集成材

施工箇所	見付け材面の品質	樹種名	寸法（㎜）	間伐材等の適用
	※ １等　・ ２等			・

・ 化粧ばり造作用集成材

施工箇所	見付け材面の品質	心材の樹種名	化粧薄板の樹種名	化粧薄板の厚さ	寸法（㎜）	間伐材等の適用
	※ １等　・ ２等					・

⊙ 単板積層材

施工箇所	表面の品質	防虫処理	寸法（㎜）	間伐材等の適用
図示	⊙ 塗装加工 ・ 加工しない（・１等　・２等　・３等）	・する ⊙しない	図示	・

⑥ 床張り用合板及びその他の合板 Ｇ [6. 5. 2]

ホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・ 第三種

・ 普通合板

施工箇所	厚さ（㎜）	接着の程度	表板の樹種名	表板の品質	防虫処理	その他の処理	間伐材等の適用
（壁、天井）					・する ・しない	・難燃処理 ・防炎処理	・
（床）	５．５	※１種 ・２種		広葉樹　・１等　※２等 針葉樹　※Ｃ－Ｄ	・する ・しない	・	・
							・

・ 構造用合板

施工箇所	厚さ（㎜）	接着の程度	等級	有効断面係数化	表板の樹種名	表板の品質	防虫処理	間伐材等の適用
（床）	１２．０	・特類 ※１類	・１級 ※２級			※Ｃ－Ｄ ・	・する ・しない	・
								・
								・

・天然木化粧合板

施工箇所	厚さ（㎜）	接着の程度	化粧板の樹種名	防虫処理	その他の処理	間伐材等の適用
（壁、天井）	※４．２ ・３．２ ・６．０	・１類 ・２類	・なら ・しおじ	・する ・しない	・難燃処理 ・防炎処理 ・しない	・
						・

・特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ（㎜）	接着の程度	表面性能	加工面	単板の樹種名	防虫処理	その他の処理	間伐材等の適用
（壁、天井）	※４．０ ・	・１類 ・２類	・Ｆ ・ＦＷ ・Ｗ ・ＳＷ	・表面 ・両面		・する ・しない	・難燃処理 ・防炎処理 ・しない	・
								・

⑦ 木材等の接着剤 [6. 5. 2]

接着剤に含まれる可塑剤は難揮発性のものとする。
ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤（以下、「ユリア樹脂等」という）を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外　・ 第三種

⑧ 防腐・防蟻処理 [6. 5. 2]

防腐処理　・ 行う
防蟻処理　・ 行う（施工範囲　※ 図示　・　　）
防腐、防蟻処理の種類、品質
表面処理用木材保存（防腐・防蟻処理）剤はクロルピリホスを含有しない薬剤とし、監督職員の承諾するものとする

MEMO

有限会社 安本設計事務所
建築士事務所登録 第385号

TITLE　西中学校特別教室棟耐震補強（建築主体）工事　設計図
NAME　建築改修工事仕様書（3）
SCALE　—

管理建築士　湯本藤雄
（一級建築士登録第168673号）

DRAW　CHIEF　HEAD　DATE　2014,01
図面－A
№－3／76

⑥ 内装改修工事

⑨ ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル [6.8.2]

ビニル樹脂系材料の原材料
再生ビニル樹脂系材料の合計重量が製品の総重量比で１５%以上使用されていること。
（ＪＩＳ Ａ ５７０５（ビニル系床材）に規定されるビニル系床材の種類で記号ＰＦに該当するものを除く）

⊙ ビニル床シート G

種類	記号	柄	厚さ（mm）	工法
※ 発泡層のないもの	※ ＨＳ	・ プレーン ※ マーブル ・ 特殊柄	⊙ ２．０ ◎ ２．５	・ 突付け ※ 熱溶接

・ ビニル床タイル G

種類		記号	厚さ（mm）	柄
・ ホモジニアス	・ 置敷き	ＨＴ	※ ２．０	・ プレーン
		ＨＴ	※ ５．０	※ マーブル
・ コンポジション	※ 半硬質	ＣＴ	※ ２．０	・ 特殊柄
	・ 軟質	ＣＴＳ		

・ 特殊機能床材（帯電防止）

種類	記号	厚さ（mm）	性能
・ 帯電防止床シート	ＮＣ	※ ２．０	帯電防止性能評価値（ＪＩＳＡ１４５５） １．２以上～３．２未満又は体積電気抵抗値 （ＪＩＳＡ１４５４）1×10^{7}～10×10^{10}Ω程度
・ 帯電防止床タイル	ＣＴＳ		

・ 特殊機能床材（帯電防止以外）

種類	厚さ（mm）	寸法（mm）	材料	色
・ 誘導用床材、注意喚起用床材（表面形状 ＪＩＳ Ｔ９２５１）	※ ２．０	※ ３００×３００	※ 塩ビ ・ 合成ゴム	黄色
		・ ４００×４００	※ 合成ゴム	
・				

ビニル巾木の高さ（mm） ※ ６０ ・ ７５ ⊙ 図示
厚さ（mm） ※ ２．０ ・
材質 ※ 軟質 ・ 硬質

⑩ 接着剤 [6.8.2] [6.11.6] [6.13.2] [6.14.2] [6.16.3]

壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外 ・ 第三種

１１ カーペット敷き [6.9.2~3]

・ 織ジュータン （ ※ 帯電防止性能ＪＩＳ Ｌ １０２３の人体帯電圧３ｋｖ以下とする。）
・ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種
・ タフテッドカーペット
パイル形状 ：
パイル長さ ：
工 法 ：
・ ニードルパンチカーペット
厚 さ ：
・ タイルカーペット G

種別	パイル形状	寸法（mm）	総厚さ（mm）	電気抵抗（Ω）	工法
※ 第一種	※ ループパイル	５００角	６．５	※ 適用しない	のり付加工品敷き
・ 第二種	・ カットパイル			・ 帯電圧３ｋＶ未満	

・ 見切り、押え金物
・ 適用する（材質、形状等 ※ 図示 ・ ）

１２ 合成樹脂塗床 [6.10.2~3]

・ 弾性ウレタン樹脂系塗床材 [表6.10.1]
仕上げの種類 ※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ
・ エポキシ樹脂系塗床材 [表6.10.2]
仕上げの種類 ・ 薄膜流し展べ仕上げ ・ 厚膜流し展べ仕上げ
・ 樹脂モルタル仕上げ ・ 防滑仕上げ
ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種

１３ 床用防じん塗料塗り

材 質 水性アクリル系樹脂塗料（ ※ 標準色 ・ ）
仕上種別 コーティング（ローラー刷毛塗り）
塗布料 主剤２回塗りとし、塗布料は０．２５kg／㎡以上とする

１４ フローリング張り [6.11.2~7]

複合フローリングのホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種
種別・工法
⊙ 単層フローリング G （ ・フローリングボード ⊙フローリングブロック ・モザイクパーケット）
・ 湿式工法 ⊙ 乾式工法（・ 釘どめ工法 ⊙ 接着工法 ）
※ 複合フローリング G （※１種 ・２種 ・３種） 表層 ※なら ・ヒノキ
・ 乾式工法（・ 釘どめ工法（・Ａ種 ・Ｂ種 ※Ｃ種） ・ 接着工法）
仕上げ ※ ウレタン樹脂ワニス ・ 生地のままワックス ・ オイルステインの上ワックス塗
間伐材等の適用 ※ 適用する
間伐材等：間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の残材、林地残材又は小径木の体積比割合が１０%以上であること。
居室の内装材にあっては、ホルムアルデヒド放散量（ＪＡＳ規格による測定方法）が平均値で０．３mg／Ｌ以下かつ最大値で０．４mg／Ｌ以下であること。
県産材の活用
⊙ 適用しない
・ 適用する（樹種 ・ ・ ・ ）

１５ 畳敷き [6.12.1] [6.12.2]

種別 ・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 ※Ｄ種
Ｄ種の場合の畳床記号 ・ＫＴ－Ⅰ ・ＫＴ－Ⅱ ※ＫＴ－Ⅲ ・ＫＴ－Ｋ ・ＫＴ－Ｎ

１６ 断熱材現場発泡工法 G [19.9.3]

ユリア樹脂又はメラニン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒド
放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種
断熱材の種類 ※ Ａ種１ ・ Ｂ種１
厚さ ・ ２５ ・ ３０ ・
施工箇所 ※ 窓廻り等の断熱材補修部分、ルーフドレイン廻りの床版下等、部分的に後張りとしなければいけない箇所
・ 図示による

１７ 断熱材の原材料 G [19.9.2~3]

グラスウール：再生資源利用率は、原材料の重量比で８０%以上であること
ロックウール：再生資源利用率は、原材料の重量比で８５%以上であること
発泡断熱材 ：オゾン層を破壊する物質を使用していないこと。また、長期的に断熱性能を保持しつつ、可能な限り地球温暖化係数の小さい物質が使用されていること

１８ 軽量鉄骨天井下地 [14.4.2~4]

野縁等の種類 屋外 ※ ２５型 ・
屋内 ※ １９型 ・ ２５型
屋外の軒天井、ピロティ天井等
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画書として提出する
天井下地における耐震性を考慮した補強
※ １４．４．４（ｈ）による
・ 天井のふところが３mを超える場合 補強箇所 ※ 図示
補強方法 ※ 図示

１９ 軽量鉄骨壁下地 [14.5.2~4]

スタッド、ランナー等の種類 表１４．５．１
・ ５０形 ・ ６５形 ・ ７５形 ⊙ ９０形 ・ １００形

２０ せっこうボード、その他ボード及び化粧張り [6.13.2]

材種・規格	施工箇所	張り方		厚さ等（mm）
・ ⊙ ＪＩＳ Ａ ６９０１ 規格品 厚さ９．５ｔは ・ 準不燃認定品 ・ 不燃認定品	⊙ 壁	⊙ 下張り	突付け	・９．５ ⊙ １２．５（不燃認定品）
		⊙ 上張り ・ 直張り ・	・ 目透し ・ 突付け ・ 雌目地処理 ⊙ 突付けＶ目地	・９．５ ⊙ １２．５（不燃認定品） ・ ｍｍ× ｍｍ ・ ｍｍ× ｍｍ
	⊙ 天井	・ 下張り	突付け	・９．５ ・ １２．５（不燃認定品）
		⊙ 上張り ・ 直張り ・	・ 目透し ⊙ 突付け ・ 雌目地処理 ・ 突付けＶ目地	⊙９．５ ・ １２．５（不燃認定品） ・ ｍｍ× ｍｍ ・ ｍｍ× ｍｍ
・ ・	・ 壁 ・ 天井	・ 下張り	突付け	・９．５ ・ １２．５（不燃認定品）
		・ 上張り ・ 直張り ・	・ 目透し ・ 突付け ・ 雌目地処理 ・ 突付けＶ目地	・９．５ ・ １２．５（不燃認定品） ・ ｍｍ× ｍｍ ・ ｍｍ× ｍｍ

天井及び壁に使用する材料は、建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたもの
合板類、ＭＤＦ及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種
パーティクルボード、繊維板、木質系セメント板の原材料 G
合板・製材工場から発生する端材等の残材、建築解体木材、使用済み梱包材、製紙未利用低質チップ、林地残材・かん木・小径木（間伐材を含む）等の再生資源である木質材料又は植物繊維の重量比配合割合が５０%以上であること。（この場合、再生資材全体に占める体積比配合率が２０%以下の接着剤、混和材等（パーティクルボードにおけるフェノール系接着剤、木質系セメント板におけるセメント等で主要な原材料相互間を接着する目的で使用されたもの）を計上せずに、重量比配合率を計算することができるものとする）

２１ 壁紙張り [6.14.2]

建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたもの

施工箇所	品質（製造所）	防火性能の級別

ホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種

２２ 吸水調整材 [6.15.3]

品質・性能等
均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
全固形分の許容値 ＪＩＳ Ａ ６２０３に準じた試験において±１．０%以内であること
吸水量 ＪＩＳ Ａ ６９１６の試験において、３０分後の吸水量が１g以下であること
接着強度 ０．９８N／mm^2 以上
界面破断率 ５０%以下

２３ タイル [6.16.3]

タイルの形状、寸法等

主な用途による区分	形状寸法（mm）	再生材の適用 G	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 あり	なし	色 標準	特注	耐凍害性 あり	なし	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、あらかじめ監督職員の承諾を受けること

役物使用箇所 ※各部の形状は図示による

内装	（標準一体成型品以外は接着成型品とする）
外装	出隅、天端出隅、窓台、マグサ

タイルの試験張り ※ 行わない ・ 行う（ ）
タイルの見本焼き ※ 行わない ・ 行う（ ）
有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種

２４ 壁タイル張り [6.16.3~5]

内装タイル 工法 ※ 壁タイル接着剤張り ・ 改良積上げ張り
[表6.17.1]

２５ セルフレベリング材塗り [6.17.2]

種類	厚さ（mm）	施工箇所
※ セメント系	※ １０	
・ せっこう系	・ １０	

２６ フリーアクセスフロア [20.2.2]

施工箇所		
構法	・ パネル構法 ・ 溝構法	・ パネル構法 ・ 溝構法
耐震性能	・ １．０Ｇ ・ ０．６Ｇ	・ １．０Ｇ ・ ０．６Ｇ
耐荷重性能	※ ３０００Ｎ ・ ５０００Ｎ	※ ３０００Ｎ ・ ５０００Ｎ
パネル寸法（mm）		
高さ（mm）	・ ・	・ ・
床表面仕上げ材の材質	※ タイルカーペット ・ 帯電防止床タイル	※ タイルカーペット ・ 帯電防止床タイル
ボーダー部及びスロープ	※ メーカー仕様 ・ 図示による	

表面仕上材の品質・性能は、標準仕様書１９章内装工事による

配線用取り出しパネル
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※ ２０～３０% ・
配線取り出し開口 ※ パネル１枚につき４０mmｘ８０mm程度の開口１ヶ所以上 ・ 図示による
空調用吹き出し（吸い込み）パネル
※ なし
・ 有り （ ※ 固定式 ・ 可変式）： 施工箇所（ ※ 図示による ・ ）
耐荷重性能（５０００N、高さ３００以上）の性能
平成元年建設省告示第１３２２号「耐震性フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等のものとする
ローリングロード性能 ※ 適用する ・ 適用しない
以下（使用上有害な変形、欠け、割れ、がたつきなどの欠点がないこと）
ローリングロード試験
耐荷重性能（３０００N）：積載荷重１０００Nの際、最大変形量１．５mm以下
耐荷重性能（５０００N）：積載荷重１０００N以上の際、最大変形量１．０mm以下
（使用上有害な変形、欠け、割れ、がたつきなどの欠点がないこと）

２７ 可動間仕切 [20.2.3]

ＪＩＳ Ａ６５１２によるほか、下記による
構造形式による種類 ※ スタッド式（ ・ スタッド露出・ スタッド内蔵 ）
・ スタッドパネル式
構成材の種類 ※ 図示による
表面材質及び厚さ（mm） ※ 鋼板０．６ ・ 鋼板０．８
パネル表面仕上げ メラニン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付（ ※ 常備色 ・ 指定色 ）
パネル総厚さ（mm） ・ 程度
遮音性の区分 ・ ０ ・ １２ ・ ２０ ・ ２８ ・ ３６
防火性能 ・ 不燃

２８ 移動間仕切 [20.2.4]

パネルの操作方法による種類 ・ 製造所の仕様による ・ 図示による
表面材質及び厚さ（mm） ※ 鋼板０．６ ・
仕上げ メラニン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付（ ※ 常備色 ・ 指定色 ）
パネル厚さ（mm） ・ 程度
パネル圧接装置の操作方法 ・ 製造所の仕様による ・ 図示による
遮音性の区分 ・ ３６未満 ・ ３６以上（ＪＩＳ Ａ６５１２に準拠する）

２９ トイレブース [20.2.5]

表面材 ※ メラニン樹脂系化粧板 ・ ポリエステル樹脂系化粧板
ドアエッジ材質形状 ※ アルミRエッジ
幅木材質 ※ ステンレス幅木

３０ 階段滑止め [20.2.6]

材種 ~~ステンレス製（ＳＵＳ３０４）（ ・ 現地生法 ※ 接着工法 ）~~ 誤り訂正
端部フラットエンド ※ 有（ ※ タイヤと同材 ・ ステンレス調 ） ・ 無
型式 ※ ビニルタイヤ又は合成ゴムタイヤ入り 幅（mm） ※ 約３５

３１ 黒板及びホワイトボード [20.2.8]

◎ ホワイトボード ほうろう 形状・寸法は図示による
・ 黒板 ※ 焼き付け 色彩 ※ 緑 形状・寸法は図示による
⊙ 既存黒板にホワイトホーロー板重ね貼 形状・寸法は図示による

３２ 鏡 [20.2.9]

取付箇所 ⊙ 図示による ・（ ）
寸法（mm） ⊙ 図示による ・
厚さ（mm） ※５ ・

３３ 表示 [20.2.10]

・ 案内板 ・ 庁舎案内板（ ※ 標準詳細図による ・ 図示による ）
・ 各階案内板（ ※ 標準詳細図による ・ 図示による ）
・ 視覚障害者用案内板（ ※ 共通詳細図による ・ 図示による ）
⊙ 室名札 ※ 標準詳細図による ⊙ 市販品
・ ピクトグラフ 標準案内図用記号 ※ ＪＩＳ Ｚ８２１０による ・ 図示による
形状・その他 ※ 図示による
・ 庁名文字 ※ 標準詳細図による ・
・ 切抜文字（・ステンレス製・黄銅製）
・ 箱文字（・ステンレス製・黄銅製）
字数（ ） 文字の大きさ（ ｘ ）
・ 対人衝突防止表示 ・ 図示による
・ 非常用進入口 ・ 図示による
案内用図記号はＪＩＳ２８１０による

３４ ブラインド [20.2.12]

形式	・ 横型ブラインド	・ 縦型ブラインド（防炎性能を有するもの）
スラットの材種	アルミニウム合金製	・ アルミスラット ・ クロススラット
スラットの種類	※ ギア式 ・ コード式	※ １本操作コード式
スラットの幅（mm）	※ ２５ ・ ３５	・ ７５以上 ・ １００

３５ ロールスクリーン [20.2.13]

材種 遮光性能 ・
品質
操作方法 ・ 電動式 ・ プリング式 ・ チェーン式

３６ カーテン及びカーテンレール [20.2.14]

カーテン

施工箇所	きれ地の品質等（製造所）	ひだの種類	開閉形式	カーテン操作方式
			・片引き ・引分	※手動 ・電動

カーテンレール及び付属金物

施工箇所	強さによる区分	材料による区分	仕上げ	形状	付属金物

暗幕用は３００mm以上の召し合せの重掛けとする

３７ 点検口

天井 材種 アルミニウム製 寸法（mm） ※ ４５０ｘ４５０ ・ ６００ｘ６００
形式 一般型 外枠 ⊙ 額縁タイプ ・ 目地タイプ
内枠 ・ 額縁タイプ ・ 目地タイプ
枠の許容差 ±０．５mm以内 外枠と内枠のクリアランス 片側２．０mm以内
材料の品質及び性能
外枠、内枠の材質
アルミニウム合金押出形材 ＪＩＳ Ｈ４１００ Ａ６０６３Ｓ－Ｔ５
表面処理 表１４．２．１のＣ－１種、Ｃ－２種（外部はＢ－１種、Ｂ－２種）
外枠及び内枠のコーナーピース、吊り金物、取付ボルト
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの
床 材種 ~~ステンレス製~~ 合成樹脂 寸法（mm） ・ ４５０ｘ４５０ ※ ６００ｘ６００ 誤り訂正
形式 ※ 屋内用一般型 ・ 密閉形
パッキンを装着しないもの及びがたつき防止用パッキンを装着したもの
枠の許容差 ±０．５mm以内 外枠と内枠のクリアランス 片側２．０mm以内
材料の品質及び性能
受枠材、蓋枠材、コーナーピース、底板材、底板補強材
アルミニウム合金押出形材ＪＩＳ Ｈ４１００ Ａ６０６３Ｓ－Ｔ５
表面処理 表１４．２．１のＡ－１種、Ａ－２種、Ｂ－１種、Ｂ－２種
開閉方式 施錠・開錠は、鍵又は開閉用ハンドル式
その他 製造所の仕様による

３８ 天井見切り縁

材種 ※ アルミニウム既製品 ⊙ ビニル既製品

３９ ピクチャーレール

※ 見切り縁兼用タイプ ・
移動フック ヶ／m 安全荷重 ※ １５kg以上 ・

４０ 誘導用床材、注意喚起用床材

材種 ・ レジンコンクリート製（厚さ６０mm） ・ 磁器質タイル製
表面形状ＪＩＳ Ｔ９２５１による
寸法 ※ ３００ｘ３００ ・
色 黄色

⑦ 塗装改修工事

① 材料 [7.1.3]

建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・第三種

② 既存塗膜の除去 [7.2.1]

塗替え種別がＲＢ種の場合の既存塗膜の除去範囲
※ 塗替え面積の３０%

③ 下地調整 [7.2.2~7]

	塗替え	新設
木部 不透明塗料塗り	（※ ＲＡ種 ・ ）	（※ ＲＡ種 ・ ）
透明塗料塗り	（※ ＲＢ種 ・ ）	（※ ＲＢ種 ・ ）
鉄鋼面	（※ ＲＢ種 ・ ）	（※ ＲＡ種 ・ ）
亜鉛めっき鋼面	（※ ＲＢ種 ・ ）	（※ ＲＡ種 ・ ）
亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）	（※ ＲＢ種 ・ ）	（※ ＲＣ種 ・ ）
モルタル面、プラスター面	（※ ＲＢ種 ・ ）	⊙ ＲＡ種 ・ ＲＢ種）
コンクリート面、ＡＬＣパネル面	（※ ＲＢ種 ・ ）	⊙ ＲＡ種 ・ ＲＢ種）
コンクリート面、押出成型セメント板面	（・ ）	⊙ ＲＡ種 ・ ＲＢ種）
せっこうボード面、その他ボード面	（※ ＲＢ種 ・ ）	⊙ ＲＡ種 ・ ＲＢ種）

④ 錆止め塗料塗り [7.3.2~3]

塗装面			塗料	工程
鉄鋼面	屋内（ＥＰ－Ｇ以外）	塗替え	※ Ａ種 １種	※ Ｃ種
	屋外	新規鉄鋼面見え掛り	※ Ａ種 １種	※ Ａ種
		新規見え掛り	※ Ａ種 １種	※ Ｂ種
	屋内（ＥＰ－Ｇ）	塗替え		※ Ｃ種
		新規鉄鋼面見え掛り	※ Ｂ種	※ Ａ種
		新規見え掛り		※ Ｂ種

塗装面			塗料	工程
亜鉛めっき鋼面	屋内（ＥＰ－Ｇ以外）	塗替え	※ Ａ種	※ Ｃ種
	屋外	新規鉄鋼面	※ Ａ種	※ Ａ種 ・ Ｂ種
	屋内（ＥＰ－Ｇ）	塗替え	※ Ｃ種	※ Ｃ種
		新規鉄鋼面	※ Ｃ種	※ Ａ種 ・ Ｂ種

⑤ 仕上げ塗料塗り [7.4.2~7.16.2]

塗装の種類	塗装面	工程 塗替え	工程 新規
⊙ 合成樹脂調合ペイント塗り（ＳＯＰ）	木部（外部）	※Ｂ種 ・	※Ａ種 ・
	木部（内部）	※Ｂ種 ・	※Ｂ種 ・
	鉄鋼面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ※Ｂ種
	亜鉛めっき鋼面	※Ｂ種 ・	※Ｂ種 ・
	鋼製建具	※Ａ種 ・	※Ｂ種 ・
・ クリアラッカー塗り （ＣＬ）	木部	・Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種
・ フタル酸樹脂エナメル塗り（ＦＥ）	屋内木部	表７．６．１	
	鉄鋼面	表７．６．２	
	亜鉛めっき鋼面	表７．６．２	
・ アクリル樹脂系水分散系塗料塗り（ＮＡＤ）	屋内のコンクリート面・モルタル面	※Ｂ種 ・	
⊙ 耐候性塗料塗り（ＤＰ）	鉄鋼面 上塗り ・ １級 ・ ２級 ・ ３級	・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種	※Ａ種
	亜鉛めっき鋼面 上塗り ・ １級 ・ ２級 ・ ３級	・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種	※Ａ種
	コンクリート面	・Ａ－１種 ・Ａ－２種 ・Ｂ－１種 ・Ｂ－２種 ・Ｃ－１種 ・Ｃ－２種	
	押出成形セメント板面	・Ａ－１種 ・Ａ－２種 ・Ｂ－１種 ・Ｂ－２種 ・Ｃ－１種 ・Ｃ－２種	
・ つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ－Ｇ）	屋内木部	※Ｂ種 ・	※Ａ種
	屋内鉄鋼面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	屋内亜鉛めっき面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	コンクリート面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	モルタル面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	プラスター面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	せっこうボード面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
⊙ 合成樹脂エマルション塗料塗り（ＥＰ）	塗装面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	コンクリート面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	モルタル面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	プラスター面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	せっこうボード面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
・ 合成樹脂エマルション模様塗料塗り（ＥＰ－Ｔ）	鉄鋼面 モルタル面 プラスター面 せっこうボード面	・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種	・Ａ種 ・Ｂ種
⊙ ウレタン樹脂ワニス塗り（ＵＣ）	木部	・Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種
・ オイルステイン塗り （ＯＳ）	木部	・Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種
・ 木材保護塗料塗り （ＷＰ）	木部	・Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種

合成樹脂調合ペイント塗りの塗料の種別 ※ １種 ・

⑧ 耐震改修工事（共通事項）

⊙特記仕様書の適用

耐震改修工事に係る特記仕様書は、別途仕様書（（社）鳥取県建築士事務所協会耐震診断評定委員会共通仕様書）を使用する。
⊙ 耐震補強特記仕様書（鉄筋コンクリート構造）
・ 耐震補強特記仕様書（鉄骨構造）

MEMO

有限会社 安本設計事務所
建築士事務所登録 第385号

TITLE 西中学校特別教室棟耐震補強（建築主体）工事 設計図
NAME 建築改修工事仕様書（4）
SCALE —

管理建築士 湯本 藤雄
（一級建築士登録第168673号）

DRAW	CHIEF	HEAD	DATE	図面－A
			2014.01	№－4／76

⑨ 環境配慮改修工事

① アスベスト含有建材の処理工事 [9．1．1] [9．1．3~5]

※県有施設の石綿除去等に係る施工業者の登録制度による登録を受けている業者であること。

施工調査

・ 分析によるアスベスト含有建材の調査

分析方法

※ ＪＩＳ Ａ１４８１「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による

・

分析結果については、監督職員に報告すること

材料名	定性分析	定量分析
	・（試料数： ）	・（試料数： ）
	・（試料数： ）	・（試料数： ）
	・（試料数： ）	・（試料数： ）

・ アスベスト粉塵濃度測定

測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点（各施工場所ごと）
	測定１	処理作業前	処理作業室内	・各１点 ・各２点 ・各３点
	測定２		調査対象室外部の付近	・各１点 ・各２点
	測定３	処理作業中	処理作業室内	・各１点 ・各２点 ・各３点
※	測定４		負圧・除塵装置の排出吹出し口	出口吹出し風速１ｍ／ｓｅｃ以下の位置 ・各１点 ・各２点
※	測定５		処理作業室外（敷地境界）	・計１点 ・４方向各１点
※	測定６	処理作業後（シート養生中）	処理作業室内	・各１点 ・各２点
	測定７	処理作業後	処理作業室内	・各１点 ・各２点 ・各３点
	測定８	（シート撤去後１週間以降）	調査対象室外部の付近	・各１点 ・各２点

測定方法

	測定３	測定１，２，４，６，７，８	測定５
メンブレンフィルタ直径（mm）	２５	２５	４７
試料の吸引流量（ｌ／ｍｉｎ）	・１ ・	・５ ・	・１０ ・
試料の吸引時間（ｍｉｎ）	・５ ・	・１２０ ・	・２４０ ・

採取箇所は図示

アスベスト含有建材の処理

・ アスベスト含有吹付け材の除去

除去対象範囲 ※ 図示

除去工法 ※ 改修標準仕様書９．１．３（ｂ）（ｉ）～（ⅳ）による

・

除去したアスベスト含有吹付け材の処理 ※ 密封処理 ・ セメント固化

・ アスベスト含有保温材等の除去

除去対象範囲 ※ 図示

作業場の隔離 ・ 行う

⊙ アスベスト含有成形板の除去

除去対象範囲 ※ 図示

処理を行うアスベスト成形板の仕様等

材料名	厚さ（mm）	処理を行う範囲
アスベスト板（設計図記載名称）	５	各階段中間踊場天井部位

石綿作業主任者

特定科学物質等作業主任者技能講習を終了した者の内から選任する。

特別管理産業廃棄物管理責任者

保温材については、排出事業者は、特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有するものを選任し管理させる。

官公署その他への手続き

９．１．３（ｂ）（２）によるほか、次の必要な手続きを行う。

（１） 建築物解体等作業届（所管労働基準監督署）

（２） 特別管理産業廃棄物管理責任者設置報告書（都道府県知事又は市長）

安全衛生管理

洗浄設備

（１） 洗眼、うがいの設備を設ける。

（２） 更衣設備等を設ける。

表示・掲示

９．１．２（ｃ）（４）による表示・掲示を行う。

作業場の養生

処理場所をプラスチックシート等で囲い、外部への粉塵飛散を防止する。

対象室（ ）

９．１．２（ｃ）（４）による表示・掲示を行う。

除去物及び汚染物の処分等

保温材については、９．１．２（ｄ）（２）による。

2 外断熱改修工事 [9．3．1~9．3．4]

断熱材の種類 [9．3．2]

種 類		発泡剤の種類	ホルムアルデヒド放散による区分	厚さ（mm）
・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・	A種 G	F☆☆☆☆等級	・
・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・	A種 G	F☆☆☆☆等級	・
・硬質ウレタンフォーム保温材	・	A種 G	F☆☆☆☆等級	・
・フェノールフォーム保温材	・	A種 G	F☆☆☆☆等級	・
・ロックウール	・		F☆☆☆☆等級	・
・グラスウール	・		F☆☆☆☆等級	・

外装材の種類 [9．3．2]

種 類	防火性能
・	

既存外壁の仕上材の撤去 ・あり ・なし

下地面の清掃及び下地調整 ※断熱材製造所の指定する仕様

通気層 ・あり（ mm） ・なし

試験施工、工法及び品質は、確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける。

特記なき事項は、製造所の仕様による。

3 ガラス改修工事 [9．4．1~9．4．3]

複層ガラスの厚さ 建具表による

複層ガラスの断熱性・日射遮へい性による区分 ※Ｕ３－１ ・Ｕ３－２

4 断熱・防露改修工事 [9．5．1~9．5．3]

断熱材の種類 [9．5．2，3]

種 類			発泡剤の種類等	厚さ（mm）	施工箇所
打込み工法	・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・	A種 G		
	・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・保温板２種ｂ	A種 G	※２５ ・	※一般部
		・保温板３種ｂ（スキン層付き）		※２５ ・	・接地部分 ・
		・			
	・硬質ウレタンフォーム保温材	・	※A種 G		
現場発泡工法	・吹付け硬質ウレタンフォーム	※A種 G	難燃性を有するもの	—	※断熱材補修部分
				※１５	・一般部 ・

5 屋上緑化改修工事 G [9．6．1~9．6．4]

植栽基盤及び材料 [9．6．1，2]

・屋上緑化軽量システム

芝及び地被類の種類等 ※図示 ・

工法 [9．6．3]

かん水装置 ・設置する（工事区分は図示による）

既存保護層の撤去 ・行う

6 透水性アスファルト舗装改修工事 [9．7．1~9．7．9]

路床の構成及び厚さ [9．7．3]

・遮断層 厚さ（mm） ※１５０ ・

・凍上抑制層 厚さ（mm） ※１５０ ・

・フィルター層 厚さ（mm） 車道部 ※１５０ ・

歩道部 ※ ５０ ・

路床安定処理

※添加材料による安定処理

添加材料の種類

・普通ポルトランドセメント

・高炉セメントＢ種 G

・フライアッシュセメントＢ種

・生石灰（ ）

・消石灰（ ）

添加量 （ ）Ｋｇ／㎡ （目標ＣＢＲ ※５以上 ・ ）

・ジオテキスタイル

単位面積質量 ６０ｇ／㎡以上

厚さ（mm） ０．５～１．０

引張強さ ９８Ｎ／５ｃｍ（１０ｋｇｆ／５ｃｍ）以上

透水係数 １．５×１０ｃｍ／ｓｅｃ以上

盛土の種別 ・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 ・Ｄ種

・建設汚泥から再生した処理土 G

遮断層及び凍上抑制層の材料

・遮断層 ※川砂、海砂又は良質な山砂 ・

厚さは図示

・凍上抑制層 ※再生クラッシャラン ・クラッシャラン ・切込砂利 ・砂

厚さは図示

発生土の処理 ※構外搬出適切処理

・構内指定場所に敷均し

・構内指定場所に堆積

・構内指定場所に処分（搬出調査等を監督職員に提出する）

路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験 ※行う ・行わない

路床の較固め度試験 ※行う ・行わない

砂の粒度試験 ※行う ・行わない

路盤材料 ・再生クラッシャラン G [9．7．4]

・クラッシャラン鉄鋼スラグ G

・

路盤厚さ（mm） 車道部 ※１５０ ・

歩道部 ※１００ ・

路盤の較固め度試験 ※行う ・行わない

舗装材料及び厚さ [9．7．5，6]

車道部 ※改質アスファルトⅠ型 厚さ（mm） ※５０ ・

歩道部 ※ストレートアスファルト 厚さ（mm） ※３０ ・

透水性アスファルト混合物等の抽出試験 ※行う ・行わない [9．7．9]

MEMO

有限会社 安本設計事務所
建築士事務所登録 第385号

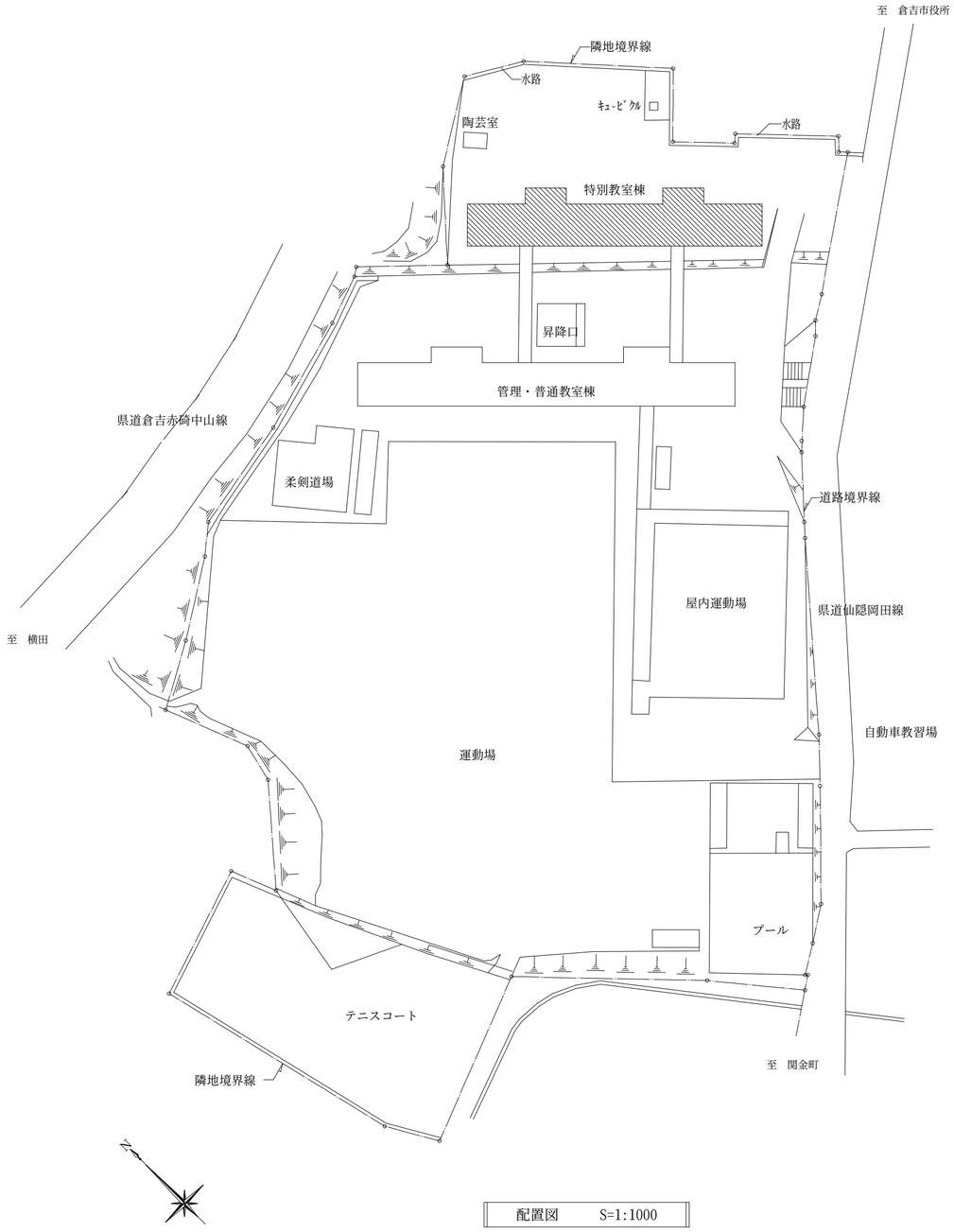
TITLE 西中学校特別教室棟耐震補強（建築主体）工事 設計図

NAME 建築改修工事仕様書（5）

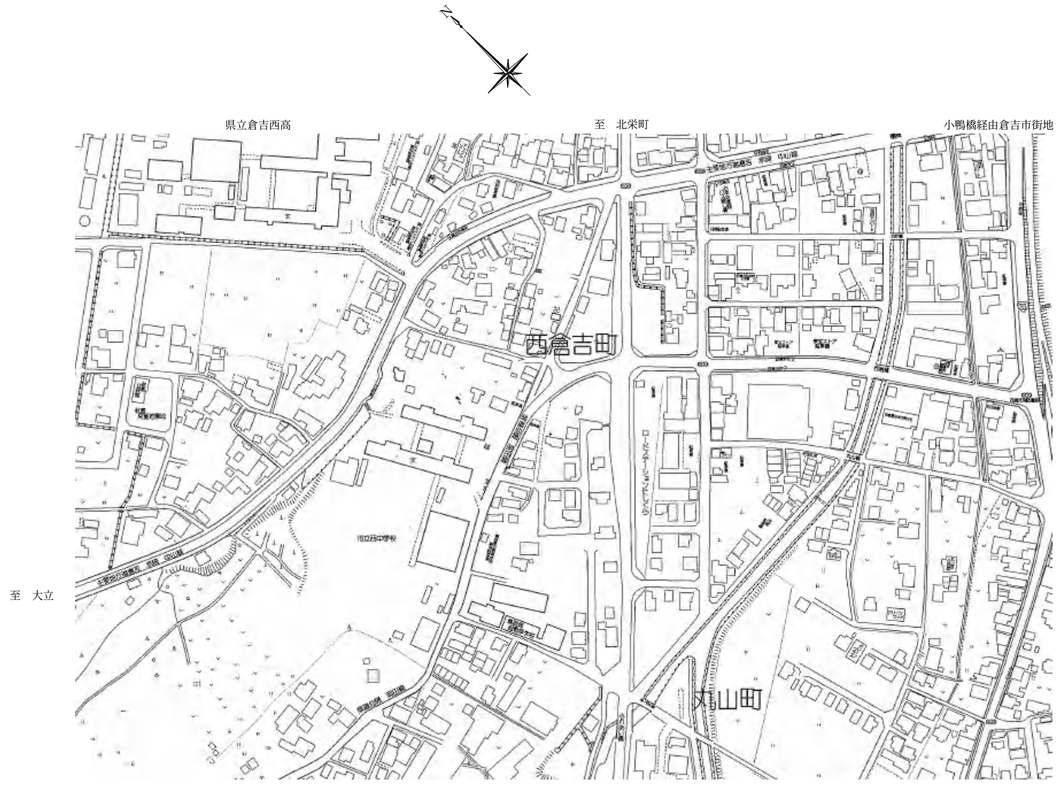
SCALE —

管理建築士 湯 本 藤 雄
（一級建築士登録第168673号）

DRAW	CHIEF	HEAD	DATE	図面－A
			2014,01	№－ 5 ／ 76



配置図　　S=1:1000



付近見取図

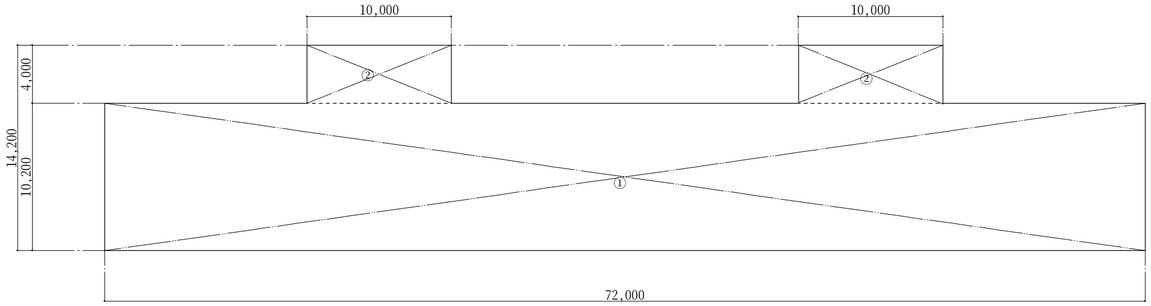
MEMO

有限会社 安本設計事務所
建築士事務所登録 第385号

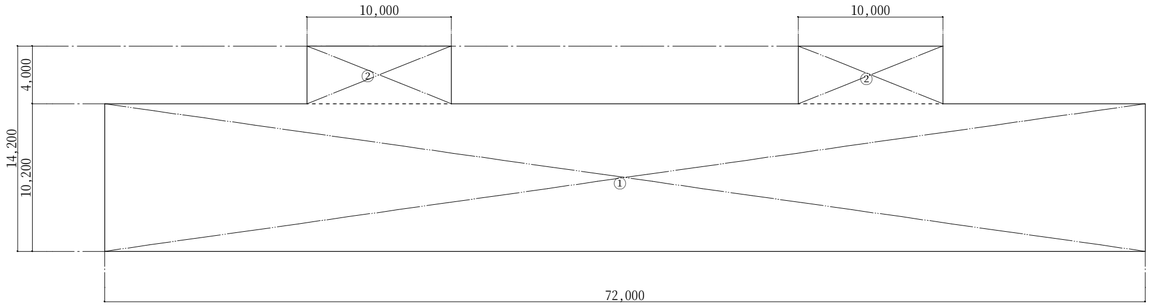
TITLE	西中学校特別教室棟耐震補強（建築主体）工事　設計図
NAME	付近見取図・配置図
SCALE	1/1000

管理建築士　湯　本　藤　雄
（一級建築士登録第168673号）

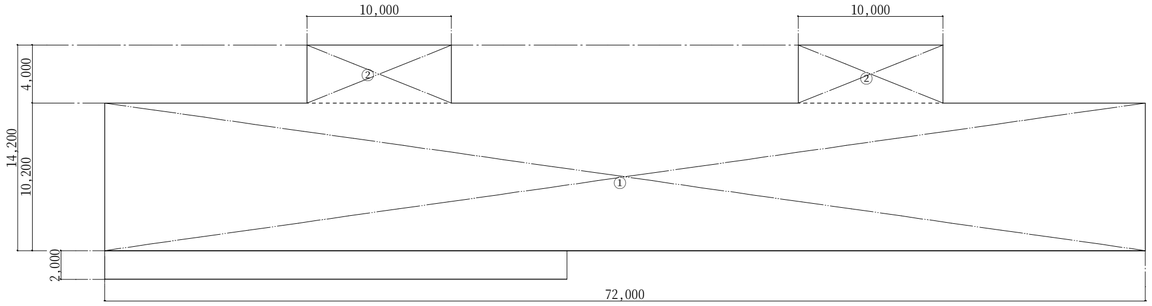
DRAW	CHIEF	HEAD	DATE	図面－A
			2014,01	No－6／76



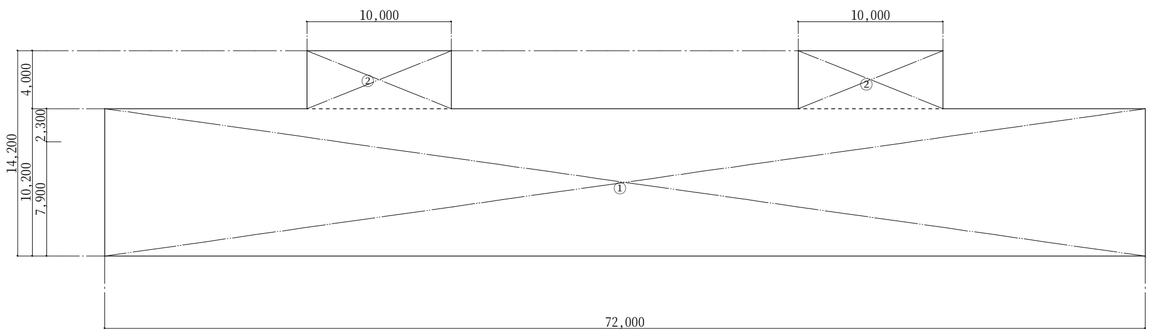
4階床面積求積図 1/300



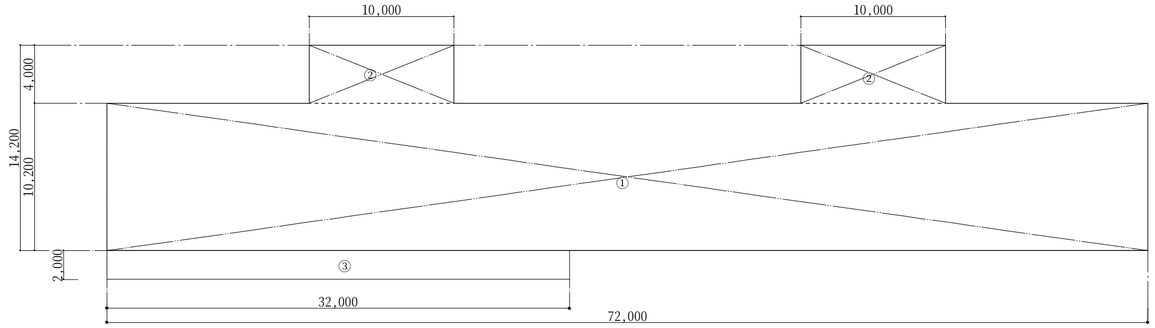
3階床面積求積図 1/300



2階床面積求積図 1/300



1階床面積求積図 1/300



建築面積求積図 1/300

＜建築面積・床面積算定表＞

公共建築物用算定					
棟	名　称	記号	計　算　式	小　計	
管理特別教室棟	1階床面積	①	72.000×10.200	734.400	
		②	(10.000*4.000) *2	80.000	
		③			
		④			
			小　計	814.400	
	2階床面積	①	72.000×10.200	734.400	
		②	(10.000*4.000) *2	80.000	
		③			
		④			
			小　計	814.400	
	3階床面積	①	72.000×10.200	734.400	
		②	(10.000*4.000) *2	80.000	
		③			
		④			
			小　計	814.400	
	4階床面積	①	72.000×10.200	734.400	
		②	(10.000*4.000) *2	80.000	
		③			
		④			
			小　計	814.400	
	延べ面積		小　計	3,257.600	
	建築面積	①	72.000×10.200	734.400	
		②	(10.000*4.000) *2	80.000	
		③	32.000×1.000	32.000	
		④			
			小　計	846.400	

MEMO

有限会社 安本設計事務所
建築士事務所登録 第385号

TITLE 西中学校特別教室棟耐震補強（建築主体）工事　設計図
NAME 面積求積図
SCALE 1/300

管理建築士 湯本藤雄
（一級建築士登録第168673号）

DRAW	CHIEF	HEAD	DATE	図面－A
			2014,01	No－ 7 ／ 76

■外部仕上表　　□　主体構造：鉄筋コンクリート造４階建て

部位	既存仕上	改修仕上	部位	既存仕上	改修仕上
屋根	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え　ｽｰﾊﾟｰﾃﾝｼｮﾝ300（ｱﾙﾐ箔付） 防水押え金物ｱﾙﾐ（ｼｰﾘﾝｸﾞ材併用） ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ（鋳物）ｼｰﾄ防水用　KPRC　Vu100及びｺｰﾅｰﾄﾞﾚﾝ ｽﾗﾌﾞ：ﾌｫｰﾑﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾎﾞｰﾄﾞ25ｔ打込み	既存のまま 屋上高架ﾀﾝｸ架台：ｹﾚﾝ、錆止め、DP塗	根廻り	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え	ﾓﾙﾀﾙ塗金ｺﾃ仕上げ
パラペット・笠木	防水ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押 立上り：ｽｰﾊﾟｰﾃﾝｼｮﾝ300（ｱﾙﾐ箔付）防水押えｱﾙﾐ（ｼｰﾘﾝｸﾞ材併用） 南側合板型枠打放ﾊﾟﾗｺﾗｰﾙ吹付　左記以外合板型枠打放しリシン（Ａ）吹付	既存のまま	犬走り	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え	根伐りに伴い側溝、犬走り改修部：ﾓﾙﾀﾙ塗り金ｺﾃ仕上（犬走り・立上り）一部ｺﾝｸﾘｰﾄｺﾃ仕上 側溝：耐震ﾌﾞﾚｰｽ設置により改修（復旧）
			雨樋	VU100φ　掴金物塩ﾋﾞｺｰﾃｨﾝｸﾞ製 VU75φ　掴金物塩ﾋﾞｺｰﾃｨﾝｸﾞ製	竪樋取替：硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ製（ｶﾗｰ）100Φ　SUS掴金物
外壁	ｺﾝｸﾘｰﾄ合板型枠打放しﾊﾟﾗｺﾗｰﾙ吹付 （打継ぎヶ所は目地巾20ﾁｵｺｰﾙ系ｺｰｷﾝｸﾞ詰めとする） 柱型：ｺﾝｸﾘｰﾄ合板型枠打放しﾘｼﾝ(A) 吹付	既存外壁について剥落部、欠損部、鉄筋錆、凹凸等事前に施工数量調査を行い、報告書を作成、提出する 防水形複層塗材E（弾性）吹付、既存仕上等撤去：塗膜劣化部（高圧洗浄30MPa以上）、取合い・目地ｼｰﾘﾝｸﾞ除去 ｸﾗｯｸ、欠損等部位の補修　：樹脂注入工法（0.2～1.0㎜）、Uｶｯﾄｼｰﾙ工法（1.0㎜以上）、ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ充填平滑仕上 耐震ﾌﾞﾚｰｽ：見掛りDP塗（ｱｸﾘﾙｼﾘｺﾝ樹脂）、ｶﾊﾞｰﾊﾟﾈﾙ：ｶﾗｰGL0.8t/裏打：PB12.5t下地L-3*30*40 ﾊﾟﾈﾙｼｰﾘﾝｸﾞ：変成ｼﾘｺﾝ（MS-2）15*10　　取合ｼｰﾘﾝｸﾞ：同　20*10	自転車置場	土間：ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え目地切（ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ6φ*150角）　ﾛｽﾄﾏｯﾄ（ｽﾃﾝﾚｽ製） 壁：合板型枠打放しﾘｼﾝ(A) 吹付 天井、梁型：ｺﾝｸﾘｰﾄ合板型枠打放しｾﾒﾝﾄ系ﾘｼﾝ吹付	土間：既存のまま　ﾈｯﾄﾌｪﾝｽ新設1800H、両扉1500W*1800H,1800W*1800H、片扉1000W*1800H 外壁・外梁・柱：防水形複層材E吹付　調査・下地処理・補修は外壁に倣う
			LPG庫	床：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え目地切 屋根：防水ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　内部：合板型枠打放し 扉：ｽﾁｰﾙﾌﾗｯｼｭ　SOP塗	既存のまま
庇・軒天	防水ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え 均しﾓﾙﾀﾙ塗ﾊﾟﾃﾋｯｸｽ防水（Ａ工法） 合板型枠打放しﾊﾟﾗｺﾗｰﾙ吹付	新設ﾌﾞﾚｰｽにより撤去箇所：一部ｱﾙﾐ庇新設3200L*600Dｽﾃｰ付、3200L*450D ｶｯﾄ部：鉄筋小口錆止め措置、ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ塗補修とする 防水形複層塗材E（弾性）吹付　軒天：防水形外装薄塗材E吹付（調査・下地処理・補修は外壁に倣う）	テラス及び水呑、足洗い	床：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え目地切 水呑場、流し：人研 足洗い場：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　立上り壁：合板型枠打放及びﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え	既存のまま
開口部	ｱﾙﾐｻｯｼ見込み70 防火戸	既存のまま 渡り廊下の鉄扉を防火ｼｬｯﾀｰに取替 ｻｯｼ/外壁取合い：ｼｰﾘﾝｸﾞ打替え	バルコニー	床：ﾓﾙﾀﾙ防水金ｺﾃ押え 腰壁：合板型枠打放しﾊﾟﾗｺﾗｰﾙ吹付 ｽﾃﾝﾚｽｽﾗｯﾌﾟ	既存のまま

■内部仕上表

棟	階	室名 改修前	室名 改修後	床 改修前	床 改修後	巾木 改修前	巾木 改修後	壁 改修前	壁 改修後	天井 改修前	天井 改修後	廻縁	天井高 改修前	天井高 改修後	備考	耐震補強の影響有	かけﾚｰﾙ（上貼）	気積札取替	プロジェクター、ハロゲン、スクリーン取替	換気扇（移動）（取替）本体は非工事
管理特別特別教室棟　改修工事	1	技術教室	音楽教室	ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗及び磁器ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ47角張	全面下地処理後　UC塗 ﾋﾟｯﾄ穴埋・機械基礎・家具・ﾀｲﾙ撤去 ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ張15t（ﾓﾙﾀﾙ下地）	木製90H-SOP塗	杉25*90H　SOP塗	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　A-Emp　ﾛｰﾗｰ塗	ｼｽﾃﾑ音響板[ACﾊﾟﾈﾙ]20.5t表面+GW64K 木胴縁：30*45（縦横@450）	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	ｼｽﾃﾑ音響ﾊﾟﾈﾙ[ACﾊﾟﾈﾙ]20.5t表面+GW64K 軒天下地+木野縁：21*45（縦横@450） 梁型：側面・下端共　木部SOP塗	杉30*30　SOP塗	3,000	3,000	掃除具入ﾛｯｶｰ、ﾃｨﾝﾊﾟﾆ（楽器収納）棚、鏡、窓額縁改修 天井点検口（450角） ﾌｺｰﾃﾞｨｵﾝｶｰﾃﾝ・家具・機械基礎撤去	○ ﾌﾟﾚｽ2throw所	○ 5線入	○ 平付		○ 移動 2 取替 2
		技術準備室	音楽準備室	ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗及び磁器ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ47角張	全面下地処理後　UC塗	木製90H-SOP塗 及び半磁器100角色物ﾀｲﾙ張	杉25*90H　SOP塗	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　A-Emp　ﾛｰﾗｰ塗 及びﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押えEP塗 半磁器100角色物ﾀｲﾙ張り	既存下地処理後EP-G塗	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しﾘｼﾝ(A) 吹付	軒天下地：化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9.5ｔ 梁型：下地処理後EP塗	塩ビ廻縁	2.850	2.850	掃除具入、楽器棚、ｱﾝﾌﾟ台、整理戸棚、譜面棚 家具・間仕切壁・中二階撤去			○ 持出		
		昇降口		磁器質無釉100角ﾀｲﾙ張（ｼﾝｺｰﾀｲﾙ）	ｼｰﾄ部全面張替 ｽﾛｰﾌﾟ：ﾉﾝｽｷｯﾌﾟｼｰﾄ貼2.5ｔ新設 ﾀｲﾙ：洗浄（酸洗い）	ﾃﾗﾌﾞﾌﾞﾛｯｸ130H	同上	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　A-Emp　ﾛｰﾗｰ塗	既存下地処理後EP-G塗	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	既存のまま 耐震改修補修部分（既存に倣う） 梁型：下地処理後EP塗	既存のまま	2,980 2,850	2,980 2,850	掲示板、下足入撤去後補修、ｽﾛｰﾌﾟ新設 煙突置場（家具）、ｽﾄｰﾌﾞ置棚	○ ﾌﾟﾚｽ 1throw所				
		自転車置場		ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え、目地切	既存のまま	ﾓﾙﾀﾙ塗	既存のまま	合板型枠打放しﾘｼﾝ(A)吹付	下地処理後 防水形複層塗材E吹付（外部面）	柱・梁あらわし 合板型枠打放しｾﾒﾝﾄ系ﾘｼﾝ吹付	既存のまま	-			耐震ﾌﾞﾚｰｽ：鉄部DP、ｶﾊﾞｰﾊﾟﾈﾙ（GL鋼板製）	○ ﾌﾟﾚｽ 2throw所 1throw所				
		ﾎﾞﾝﾌﾟ室・倉庫		防水ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え・ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え	既存のまま （階段室SK流し配管）ｶﾊﾞｰ	合板型枠打放し	既存のまま	合板型枠打放し及びCB100ｔ化粧積	既存のまま	合板型枠打放し	既存のまま	-								
	2	調理教室		ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗及び磁器ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ47角張	一部（流し前）張替え 全面下地処理後　UC塗 ﾀｲﾙ：洗浄（酸洗い）	木製90H-SOP塗	既存のまま 一部下地処理後 SOP塗	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　A-Emp　ﾛｰﾗｰ塗	既存下地処理後EP-G塗	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	耐震改修補修部分（既存に倣う） ｼﾐ・破損個所等張替 梁型：下地処理後EP塗	既存のまま	3,000	3,000		○ ﾌﾟﾚｽ 1throw所	○ 曲面		○	○ 取替 4
		調理準備室		ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗	既存のまま	木製90H-SOP塗 及び半磁器100角 色物ﾀｲﾙ張	既存のまま	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　A-Emp　ﾛｰﾗｰ塗 半磁器100角色物ﾀｲﾙ張り	既存のまま	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	既存のまま	既存のまま	3,000	3,000			○			
		被服教室		ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗	一部張替え（ﾌﾛｱｺﾝｾﾝﾄ撤去部分） 全面下地処理後　UC塗	木製90H-SOP塗 及び半磁器100角 色物ﾀｲﾙ張	既存のまま	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　A-Emp　ﾛｰﾗｰ塗 半磁器100角色物ﾀｲﾙ張り	下地処理後、EP-G塗 手洗器腰壁：ﾀｲﾙ洗い	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	耐震改修補修部分（既存に倣う） ｼﾐ・破損個所等張替 梁型：下地処理後EP塗	既存のまま	3,000	3,000	TVH撤去	○ ﾌﾟﾚｽ 2throw所	○ 曲面		○	○ 移動 1 取替 1
		被服準備室		ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗	既存のまま	木製90H-SOP塗 及び半磁器100角 色物ﾀｲﾙ張	既存のまま	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　A-Emp　ﾛｰﾗｰ塗 半磁器100角色物ﾀｲﾙ張り	既存のまま	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	既存のまま	既存のまま	3,000	3,000			○			
		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室 / 踏込		置敷ｶｰﾍﾟｯﾄﾀｲﾙ（OAﾌﾛｱ）（帯電防止） 「踏込」：塩ﾋﾞｼｰﾄ貼り	既存のまま（踏込共）	木製90H-SOP塗	既存のまま	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　A-Emp　ﾛｰﾗｰ塗	既存のまま（ｸﾛｽ部分共）	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	既存のまま	既存のまま	3,000	2,910					○	
		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ準備室		塩ビﾀｲﾙ貼り4t(OT) *500角(OAﾀｲﾙ)	既存のまま	木製90H-SOP塗 及び半磁器100角 色物ﾀｲﾙ張	既存のまま	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　A-Emp　ﾛｰﾗｰ塗 半磁器100角色物ﾀｲﾙ張り	既存のまま（ｸﾛｽ部分共）	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	既存のまま	既存のまま	3,000	2,910						
		教材室	技術室	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え、ｶﾗｰﾌﾘｰﾄ 均しﾓﾙﾀﾙｽｰﾊﾟｰﾃﾝｼｮﾝ4ｔ　AF17kg敷込	全面下地処理後ｼｰﾄ2t貼り 水槽、棚等撤去後ﾓﾙﾀﾙ補修 既存配管用穴塞ぎ	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え A-Emp　ﾛｰﾗｰ塗	ｿﾌﾄ巾木100H	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　A-Emp　ﾛｰﾗｰ塗 及び石膏ﾎﾞｰﾄﾞ12t二重貼　A-Empﾛｰﾗｰ塗	ﾎﾞｰﾄﾞ一部（出入口設置部）改修 ﾓﾙﾀﾙｸﾗｯｸ補修 下地処理後、EP-G塗	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	耐震改修補修部分（既存に倣う） ｼﾐ・破損個所張替 梁型：下地処理後EP塗	既存のまま	3,000	3,000	既存棚類（一部改修）：清掃美装、SUS製手洗 万力台2台、ﾎﾞｰﾙ盤台、ｽﾁｰﾙ棚改修	○ ﾌﾟﾚｽ 2throw所	○	○ 平付		○ 移動 2
		印刷室	技術準備室	ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗及びｶｰﾍﾟｯﾄ（OIC）敷	全面下地処理後　UC塗 OIC撤去	木製90H-SOP塗	一部木造巾木 追加張りSOP塗	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　A-Emp　ﾛｰﾗｰ塗	ﾎﾞｰﾄﾞ部一部張替 下地処理後、EP-G塗	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	一部化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9.5ｔ張替 梁型：下地処理後、EP塗	既存のまま	3,000	3,000	既存棚類（一部改修）：清掃美装、造付家具（棚） 間仕切壁改修（一部扉新設）		○	○ 持出		
	3	図書室		ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗	全面下地処理後UC塗	木製90H-SOP塗 及び半磁器100角 色物ﾀｲﾙ張	既存のまま	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　A-Emp　ﾛｰﾗｰ塗 半磁器100角色物ﾀｲﾙ張り	下地処理後、EP-G塗 手洗器腰壁：ﾀｲﾙ洗い	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	耐震改修補修部分（既存に倣う） ｼﾐ・破損個所張替 梁型：下地処理後EP塗	既存のまま	3,000	3,000	北側本棚固定（3）		○			○ 移動 2
		第一理科教室		ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗及び磁器ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ47角張	一部（流し前）張替え 全面下地処理後　UC塗 ﾀｲﾙ：洗浄（酸洗い）	木製90H-SOP塗	一部下地処理後 SOP塗	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　A-Emp　ﾛｰﾗｰ塗 水槽：ﾀｲﾙ貼り	下地処理後、EP-G塗 ﾀｲﾙ：洗浄（酸洗い）	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	ｼﾐ・破損個所等張替 梁型：下地処理後EP塗	既存のまま	3,000	3,000	TVH（2）撤去、既存ﾁｬﾝﾊﾟ-BOX撤去 床配管用穴塞ぎ		○ 2ヵ所		○	○ 取替 2
		第一理科準備室		ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗及び磁器ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ47角張	既存のまま	木製90H-SOP塗	既存のまま	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　A-Emp　ﾛｰﾗｰ塗 水槽：ﾀｲﾙ貼り	既存のまま	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	既存のまま	既存のまま	3,000	3,000			○			
		第二理科教室		ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗及び磁器ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ47角張	一部（流し前）張替え 全面下地処理後　UC塗 ﾀｲﾙ：洗浄（酸洗い）	木製90H-SOP塗	一部下地処理後 SOP塗	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　A-Emp　ﾛｰﾗｰ塗 手洗水槽：ﾀｲﾙ貼り	処理後、EP-G塗 ﾀｲﾙ：洗浄（酸洗い）	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	ｼﾐ・破損個所等張替 梁型：下地処理後EP塗	既存のまま	3,000	3,000	TVH（2）撤去		○ 2ヵ所		○	○ 取替 2

MEMO

有限会社 安本設計事務所
建築士事務所登録 第385号

TITLE　西中学校特別教室棟耐震補強（建築主体）工事　設計図
NAME　外部仕上表・内部仕上表（1）
SCALE

管理建築士　湯本藤雄
（一級建築士登録第168673号）

DRAW	CHIEF	HEAD	DATE	図面－A
			2014,01	No－8／76

■内部仕上表

棟	階	室名 改修前	室名 改修後	床 改修前	床 改修後	巾木 改修前	巾木 改修後	壁 改修前	壁 改修後	天井 改修前	天井 改修後	廻縁	天井高 改修前	天井高 改修後	備考	耐震補強の影響有	黒板 ホワイトボード（上貼）	室名札 取替	プロジェクター、ハンターファスナー取替	換気扇（移動）（取替）本体は土工事
管理特別特別教室棟	3	第二理科準備室		ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗及び磁器ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ47角張	既存のまま	木製90H-SOP塗	既存のまま	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え A-Emp ﾛｰﾗｰ塗	既存のまま	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	既存のまま	既存のまま	3,000	3,000			○			○ 取替 2
		美術教室 美術前室		ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗及び磁器ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ47角張	流し前張替え 全面下地処理後 UC塗 ﾀｲﾙ：洗浄（酸洗い）	木製90H-SOP塗	既存のまま	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え A-Emp ﾛｰﾗｰ塗 水槽：ﾀｲﾙ貼り	下地処理後、EP-G塗 ﾀｲﾙ：洗浄（酸洗い）	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	ｼﾐ・破損個所等一部張替 梁型：下地処理後EP塗	既存のまま	3,000	3,000	TVH撤去、床穴塞ぎ		○ 2ヶ所 曲面（1）		○	○ 取替 2
		美術準備室		ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗	既存のまま	木製90H-SOP塗	既存のまま	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え A-Emp ﾛｰﾗｰ塗	既存のまま	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	既存のまま	既存のまま	3,000	3,000			○			
	4	視聴覚教室		ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗及びﾌﾛｱｰﾊﾟﾈﾙ15ｔ*303*1818 （表面樹脂塗装仕上品）	全面下地処理後 UC塗	木製90H-SOP塗	既存のまま	有孔ﾗﾜﾝﾍﾞﾆ75.5ｔ （T2）SOP塗 裏面寒冷紗張 吸音材25ｔ 嵌め込み	一部有孔ﾗﾜﾝﾍﾞﾆ75.5ｔ張替え SOP塗 掲示板ｼｰﾄ貼り	軽天下地岩綿吸音板張（ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ） 9ｔ*303*606、石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ 捨張 梁型：側ﾗﾜﾝ25ｔ、下端ﾗﾜﾝﾍﾞﾆ75.5ｔSOP塗	ｼﾐ・破損等張替	既存のまま	3,000	3,000	TVH撤去、床塞ぎ（ｽﾃｰｼﾞ） 曲面黒板は1/2ｽﾛｰﾛｰ板にて改修済		○ 2ヶ所 曲面（1）			○ 取替 2
		相談室2		ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗	全面下地処理後 UC塗	木製90H-SOP塗	既存のまま	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押えA-Emp ﾛｰﾗｰ塗 及び軽鉄間仕切石膏ﾎﾞｰﾄﾞ12ｔ*2 （ｼﾞｮｲﾝﾄ工法）A-Emp ﾛｰﾗｰ塗	下地処理後、EP-G塗	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	ｼﾐ・破損個所等一部張替 梁型：下地処理後 EP塗	既存のまま	3,050	3,050						○ 取替 1
		暗室		ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗	既存のまま	木製90H-SOP塗 及び半磁器100角 色物ﾀｲﾙ張	既存のまま	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押えA-Emp ﾛｰﾗｰ塗及び半磁器100角色物ﾀｲﾙ張り軽鉄間仕切石膏ﾎﾞｰﾄﾞ12ｔ*2（ｼﾞｮｲﾝﾄ工法）A-Emp ﾛｰﾗｰ塗	既存のまま	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	既存のまま	既存のまま	2,400	2,400						
		多目的活動室		ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗	全面下地処理後 UC塗	木製90H-SOP塗	既存のまま	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え A-Emp ﾛｰﾗｰ塗	下地処理後、EP-G塗 掲示板ｼｰﾄ貼り	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	ｼﾐ・破損個所等一部張替 梁型：下地処理後、EP塗	既存のまま	3,050	3,050	既存黒板：掲示板ｼｰﾄ貼		○ 3ヶ所 行灯（1）			○ 取替 2
		会議室		ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗	全面下地処理後 UC塗	木製90H-SOP塗	既存のまま	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え A-Emp ﾛｰﾗｰ塗	下地処理後、EP-G塗	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	ｼﾐ・破損個所等一部張替 梁型：下地処理後、EP塗	既存のまま	3,050	3,050			○				
		音楽室	多目的室	ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗及びﾌﾛｱｰﾊﾟﾈﾙ15ｔ*303*1818 （表面樹脂塗装仕上品）	全面下地処理後 UC塗 流し撤去部分張替	木製90H-SOP塗 及び半磁器100角 色物ﾀｲﾙ張	一部木製巾木 取付：SOP塗	有孔ﾗﾜﾝﾍﾞﾆ75.5ｔ （T2）SOP塗 裏面寒冷紗張 吸音材25ｔ 嵌め込み 及び半磁器100角色物ﾀｲﾙ張	既存のまま 一部有孔ﾗﾜﾝﾍﾞﾆ75.5ｔ張替 SOP塗 破損・ﾗｲﾆﾝｸﾞ撤去部	軽天下地成型吸音板(ｲｰﾃﾞｨｯｸB) 600角（ｶﾗｰ）、専用ｼﾞｮｲﾅｰ使用（ｶﾗｰ）	既存のまま	既存のまま	3,050	3,050	TVH撤去、手洗い撤去		○	○ 平付		○ 取替 2
		音楽準備室	相談室	ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ張）15ｔ*303*303 UP塗	全面下地処理後 UC塗	木製90H-SOP塗	既存のまま	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え A-Emp ﾛｰﾗｰ塗	下地処理後、EP-G塗	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 梁型：合板型枠打放しA-Empﾛｰﾗｰ塗	ｼﾐ・破損個所等一部張替 梁型：下地処理後、EP塗	既存のまま	3,050	3,050	掃除用ﾛｯｶｰ（ｽﾁｰﾙ）新設、既存棚美装			○ 持出		
	共通	各階廊下		ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え塩ﾋﾞ系ｼｰﾄ張2.0ｔ （溶接工法）及び磁器ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ47角張	全面張替：塩ﾋﾞｼｰﾄ貼2ｔ ﾀｲﾙ：洗浄（酸洗い）	木製90H SOP塗	既存のまま	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え A-Emp ﾛｰﾗｰ塗 手洗い水槽：ﾀｲﾙ張り	下地処理後、EP-G塗 ﾀｲﾙ：洗浄（酸洗い）	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910	ｼﾐ・破損個所等一部張替 耐震改修補修部分（2階）（既存に倣う）	既存のまま	2,700	2,700						
		階段（1）		ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え塩ﾋﾞ系ｼｰﾄ張2.0ｔ （溶接工法）	全面張替：塩ﾋﾞｼｰﾄ貼2ｔ	ｿﾌﾄ巾木 H=100	全面張替え ﾋﾞﾆﾙ巾木H=100 ｻﾗｻﾗ巾木	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え A-Emp ﾛｰﾗｰ塗	下地処理後、EP-G塗	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 及びﾌｱｽﾍﾞｽﾄ板5ｔ 下地ﾐｷｺｰﾄ吹付 ｽﾗﾌﾞ：合板型枠打放し ﾐｷｺｰﾄ吹付	最上階：既存のまま 各階踊場：ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板5tEP塗	踊場取替 ・塩ﾋﾞ製（突付）	-	-	面台一部補修（TB）、ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ改修（ｺﾞﾑﾀｲﾌﾟ入）					
		階段（2）		ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え塩ﾋﾞ系ｼｰﾄ張2.0ｔ （溶接工法）	全面張替：塩ﾋﾞｼｰﾄ貼2ｔ	ｿﾌﾄ巾木 H=100	全面張替え ﾋﾞﾆﾙ巾木H=100 ｻﾗｻﾗ巾木	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え A-Emp ﾛｰﾗｰ塗	下地処理後、EP-G塗	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910 及びﾌｱｽﾍﾞｽﾄ板5ｔ 下地ﾐｷｺｰﾄ吹付 ｽﾗﾌﾞ：合板型枠打放し ﾐｷｺｰﾄ吹付	最上階：既存のまま 各階踊場：ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板5t	踊場取替 ・塩ﾋﾞ製（突付）	-	-	ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ改修（ｺﾞﾑﾀｲﾌﾟ入）					
		男子便所（1階）		ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ47角張（無釉仕上） ﾗｸﾞﾗﾝﾓｻﾞｲｸSｶﾗｰ	全面張替：塩ﾋﾞｼｰﾄ貼2ｔ[消臭NSﾄﾜﾚﾝﾈ] ﾓﾙﾀﾙ下地（蕊上げ共） 改修便器穴埋補修	半磁器100角 色物ﾀｲﾙ張	ﾀｲﾙ撒去 壁専用品60H	半磁器100角色物ﾀｲﾙ張り	ﾀｲﾙ撒去、壁：ﾓﾙﾀﾙ下地EP-G塗 ﾗｲﾆﾝｸﾞ：合板下地ﾒﾗﾐﾝ化粧板3t 腰：ﾓﾙﾀﾙ下地（1220H）ﾒﾗﾐﾝ化粧板3t	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9.5ｔ（LGS共）	塩ﾋﾞ製	2,500	2,475	床下点検口（600角SUS鍵付）取替 ﾗｲﾆﾝｸﾞ天端（小口共）SUS20ｔ、下地：LGS90+合板12ｔ			○ ﾋﾟｸﾄｻｲﾝ		○ 取替1
		女子便所（1階）		ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ47角張（無釉仕上） ﾗｸﾞﾗﾝﾓｻﾞｲｸSｶﾗｰ	全面張替：塩ﾋﾞｼｰﾄ貼2ｔ[消臭NSﾄﾜﾚﾝﾈ] ﾓﾙﾀﾙ下地（蕊上げ共） 改修便器穴埋補修	半磁器100角 色物ﾀｲﾙ張	ﾀｲﾙ撒去 壁専用品60H	半磁器100角色物ﾀｲﾙ張り	ﾀｲﾙ撒去、壁：ﾓﾙﾀﾙ下地EP-G塗 ﾗｲﾆﾝｸﾞ：合板下地ﾒﾗﾐﾝ化粧板3t 腰：ﾓﾙﾀﾙ下地（1220H）ﾒﾗﾐﾝ化粧板3t	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9.5ｔ（LGS共）	塩ﾋﾞ製	2,500	2,475	床下点検口（600角SUS鍵付）取替 ﾗｲﾆﾝｸﾞ天端（小口共）SUS、下地：LGS90+合板12ｔ			○ ﾋﾟｸﾄｻｲﾝ		○ 取替1
		男子便所 （2,3,4階）		ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ47角張（無釉仕上） ﾗｸﾞﾗﾝﾓｻﾞｲｸSｶﾗｰ 均しﾓﾙﾀﾙｽｰﾊﾟｰﾃﾞﾝｼｮﾝ4ｔ張	全面張替：塩ﾋﾞｼｰﾄ貼2ｔ[消臭NSﾄﾜﾚﾝﾈ] ﾓﾙﾀﾙ下地（蕊上げ共） 改修便器穴埋補修	半磁器100角 色物ﾀｲﾙ張	ﾀｲﾙ撒去 壁専用品60H	半磁器100角色物ﾀｲﾙ張り	ﾀｲﾙ撒去、壁：ﾓﾙﾀﾙ下地EP-G塗 ﾗｲﾆﾝｸﾞ：合板下地ﾒﾗﾐﾝ化粧板3t 腰：ﾓﾙﾀﾙ下地（1220H）ﾒﾗﾐﾝ化粧板3t	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9.5ｔ（LGS共）	塩ﾋﾞ製	2,500	2,475	三方枠・沓摺：SUS 雑巾掛（2）,ﾓｯﾌﾟ掛（1） ﾗｲﾆﾝｸﾞ天端（小口共）SUS、下地：LGS90+合板12ｔ			○ 3 ﾋﾟｸﾄｻｲﾝ		○ 取替3
		女子便所 （2,3,4階）		ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ47角張（無釉仕上） ﾗｸﾞﾗﾝﾓｻﾞｲｸSｶﾗｰ 均しﾓﾙﾀﾙｽｰﾊﾟｰﾃﾞﾝｼｮﾝ4ｔ張	全面張替：塩ﾋﾞｼｰﾄ貼2ｔ[消臭NSﾄﾜﾚﾝﾈ] ﾓﾙﾀﾙ下地（蕊上げ共） 改修便器穴埋補修	半磁器100角 色物ﾀｲﾙ張	ﾀｲﾙ撒去 壁専用品60H	半磁器100角色物ﾀｲﾙ張り	ﾀｲﾙ撒去、壁：ﾓﾙﾀﾙ下地EP-G塗 ﾗｲﾆﾝｸﾞ：合板下地ﾒﾗﾐﾝ化粧板3t 腰：ﾓﾙﾀﾙ下地（1220H）ﾒﾗﾐﾝ化粧板3t	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9ｔ*455*910	軽天下地化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ9.5ｔ（LGS共）	塩ﾋﾞ製	2,500	2,475	三方枠・沓摺：SUS 雑巾掛（2）,ﾓｯﾌﾟ掛（1） ﾗｲﾆﾝｸﾞ天端（小口共）SUS、下地：LGS90+合板12ｔ			○ 3 ﾋﾟｸﾄｻｲﾝ		○ 取替3

■ 外部足場設置後、外壁､柱型､軒裏､ﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄの鉄筋露出、剥離、ｸﾗｯｸの有無等調査を行い、報告書を作成し監督員に提出すること
補修方法、取りまとめは事前に監督員と協議を行うこと

■ 耐震補強及び付帯・老朽改修工事において、取外したﾌﾟﾗｲﾝﾄﾞ・ｶｰﾃﾝ・流し台等再使用品の管理をすること

■ 外壁部（一部内壁部）のｸﾗｯｸ等部位の補修：樹脂注入工法（目地幅0.2～1.0mm）､Uｶｯﾄｼｰﾙ工法(1.0mm以上10*15mm程度）
外部部（一部内壁部）の欠損等部位の補修：ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ塗付（平滑仕上）
既存仕上等撤去：塗膜劣化部除去（高圧洗浄水圧：30MPa）､目地・建具廻ｼｰﾘﾝｸﾞ除去

■ 床改修：既存ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ（ﾌﾞﾅ・15t×303×303）、ｻﾝﾀﾞｰ掛けUC塗装とする

■ 便所の改修、床塩ﾋﾞｼｰﾄは消臭・防滑・耐汚（尿）及びﾜｯｸｽﾒﾝﾃﾅﾝｽ不要の材料とする

■ 黒板改修は既存黒板にﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞｼｰﾄ（ﾎｰﾛｰ鋼板）貼付けとする

■ VOC「室内空気中の化学物質の濃度」測定を行う。物質はﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ・ﾄﾙｴﾝ・ｷｼﾚﾝ・ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ・ｽﾁﾚﾝ・ﾊﾟﾗｼﾞｸﾛﾛﾍﾞﾝｾﾞﾝとし、判定基準は文部科学省の指針値に倣う。

■ 換気扇は本体の取替及びﾋﾓのみの取替は機械工事、窓換気扇のﾊﾞﾈﾙ・ｼｰﾙは建築工事とする

■ 図中の[商品名]は参考品とする、採用にあたっては必要書類を事前に監督職員に提出し承諾を受ける

■ 凡例（明朝体文字：既存､改修前・ｺﾞｼｯｸ体文字：改修､改修後）

・ LGS ：軽量鉄骨間仕切壁（又は天井）下地組	・ GB-D ：化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	・ EP ：合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ	・ FL ：（ｶﾞﾗｽ）透明磨板ｶﾞﾗｽ
・ SP ：ｽｶｰﾙﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ（学校間仕切）	・ GB-R ：石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	・ EP-G ：合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ艶あり	・ F ：（ｶﾞﾗｽ）型板ｶﾞﾗｽ
・ AL ：ｱﾙﾐﾆｳﾑ	・ GB-S ：耐水石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	・ SOP ：合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ	・ AP ：ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ
・ SUS ：ｽﾃﾝﾚｽ	・ GB-F ：強化石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	・ UC ：ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ樹脂	
		・ DP ：耐侯性塗料	
		・ OS ：ｵｲﾙｽﾃﾝ塗	

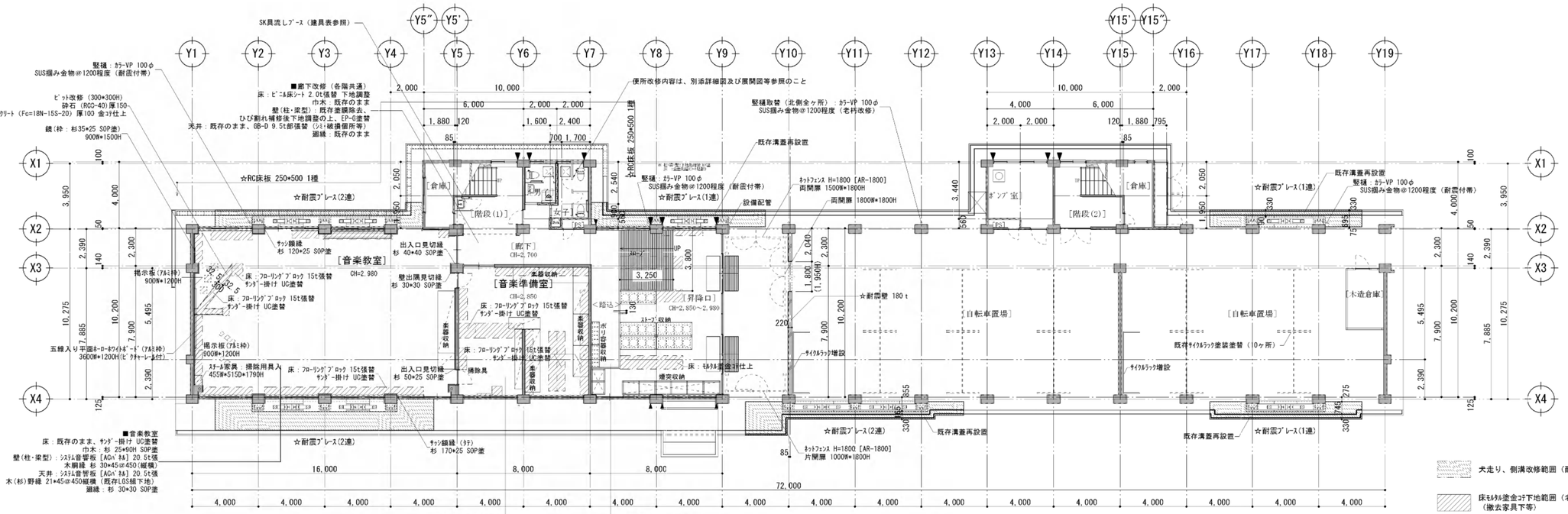
MEMO

有限会社 安本設計事務所
建築士事務所登録 第385号

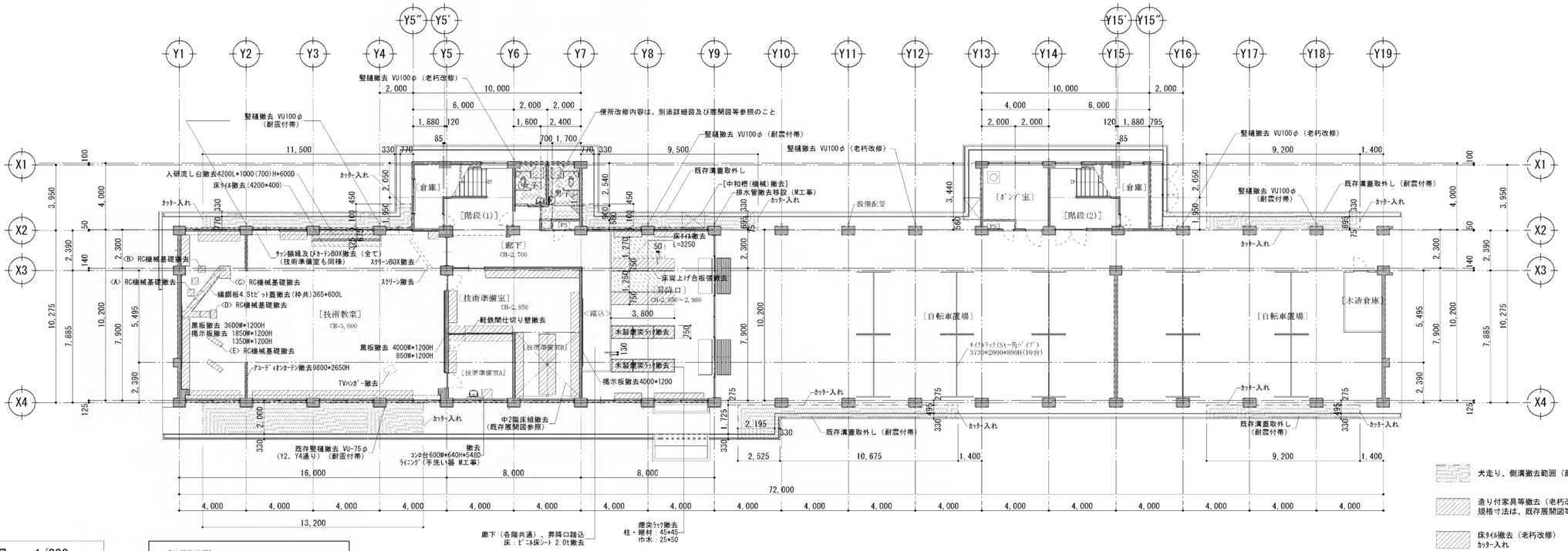
TITLE 西中学校特別教室棟耐震補強（建築主体）工事 設計図
NAME 内部仕上表（2）
SCALE

管理建築士 湯本 藤雄
（一級建築士登録第168673号）

DRAW | CHIEF | HEAD | DATE 2014.01 | 図面－A №－9／76



改修　1階平面図　1/200



既存　1階平面図　1/200

[技術室特記]
1. 機械基礎はFL-30mmまで斫り撤去すること。
2. 基礎寸法は、
- <A> ボール盤 600*600*560H(FL+510) 2ヶ所
- <B> ボール盤 500*500*100H(FL+50) 1ヶ所
- <C> かんな盤 1,200*1,200*150H(FL+100) 1ヶ所
- <D> 丸鋸 900*900*100H(FL+50) 1ヶ所
- <E> 旋盤 1000*270*50H(FL±0) 2ヶ所

註）北側面の竪樋VU管は、耐震及び老朽改修に係わらず掴み金物共全て撤去する。（各階共通）

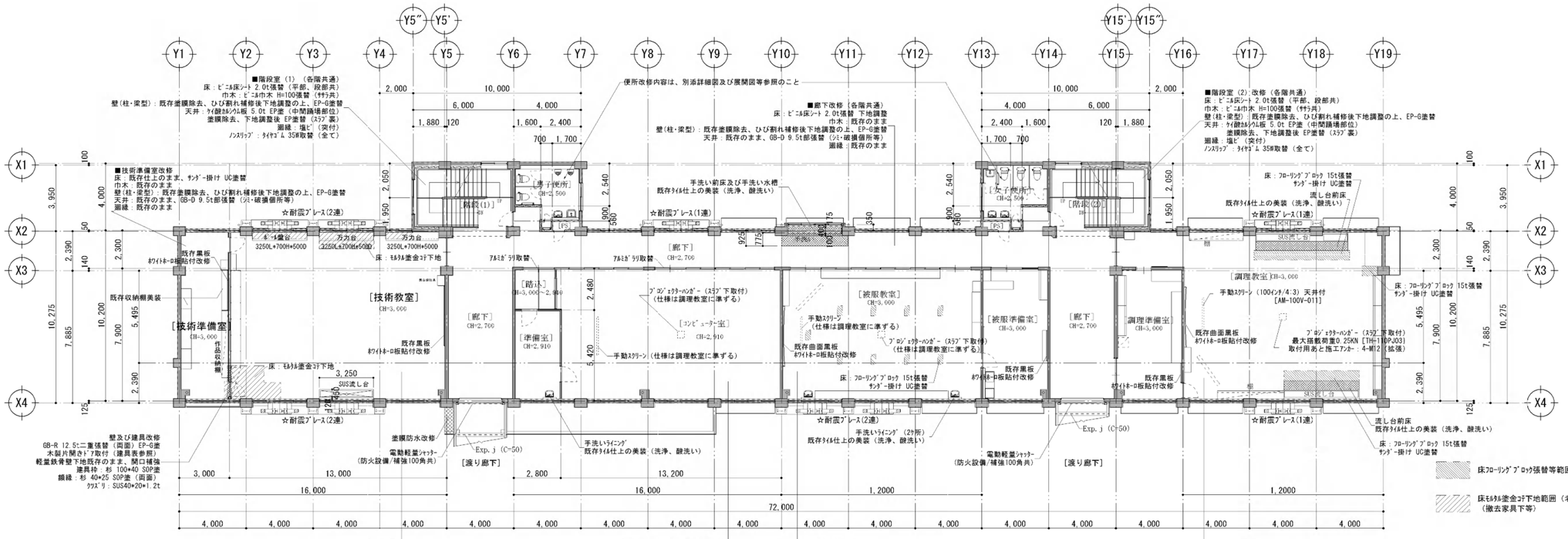
MEMO　<特記事項>
1. 庇等の撤去部分の露出鉄筋には、防さびの措置を施し、切断ｺﾝｸﾘｰﾄ面はﾓﾙﾀﾙ等で補修を行うこと。
2. 張替ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸはｸｯｼｮﾝ付ﾌﾞﾅ材とし直張工法とする。また、その下地はﾓﾙﾀﾙ塗金ｺﾃ押えとする。
3. 耐震ﾌﾞﾚｰｽ取付部位の天井は、既存LGS組下地としその仕上げは特記なき限り既存周囲仕上材と同等仕様とする。

有限会社 安本設計事務所
建築士事務所登録 第385号

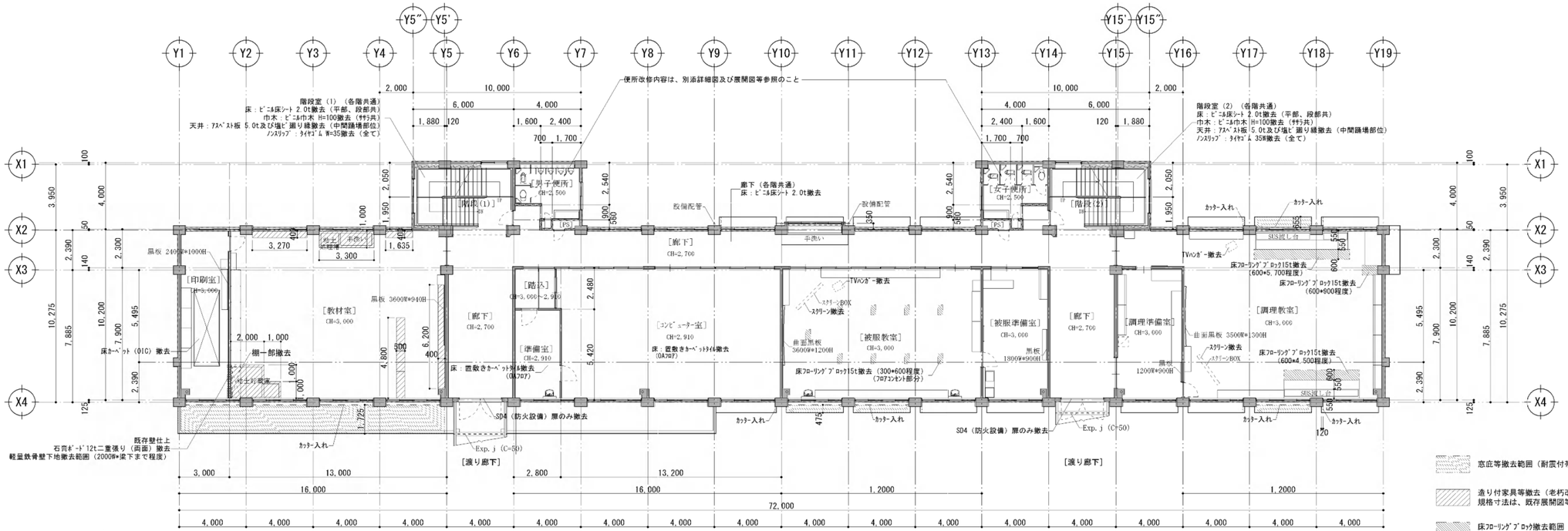
TITLE　西中学校特別教室棟耐震補強（建築主体）工事　設計図
NAME　1階平面図
SCALE　1/200

管理建築士　湯本藤雄
（一級建築士登録第168673号）

DRAW	CHIEF	HEAD	DATE	図面ー A
新内	安本	湯本	2014.01	No.10/76



改修　２階平面図　1/200



既存　２階平面図　1/200

註）各階、階段中間踊場の天井材（ｱｽﾍﾞｽﾄ板）撤去は環境配慮工事とし、関係法令を遵守し、適正に養生、撤去、運搬、処分すること。

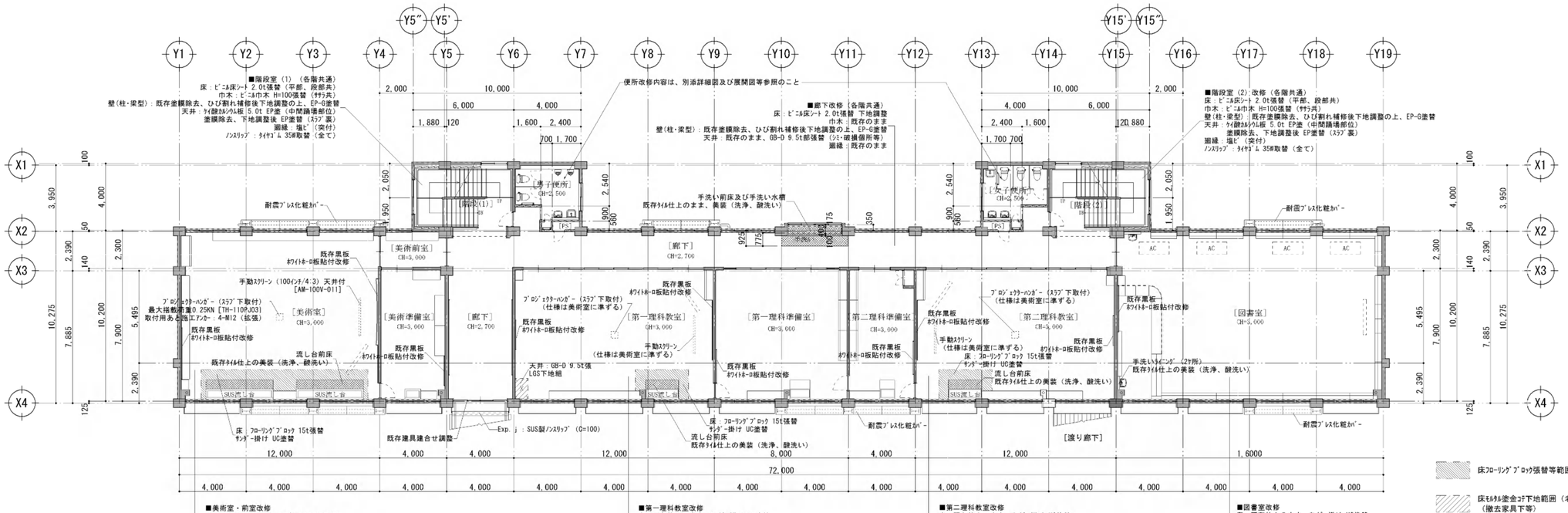
MEMO　<特記事項>
1．庇等の撤去部分の露出鉄筋には、防さびの措置を施し、切断ｺﾝｸﾘｰﾄ面はﾓﾙﾀﾙ等で補修を行うこと。
2．張替ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸはｸｯｼｮﾝ付ﾌﾞﾅ材とし直張工法とする。また、その下地はﾓﾙﾀﾙ塗金ｺﾃ押えとする。
3．耐震ﾌﾞﾚｰｽ取付部位の天井は、既存LGS組下地としその仕上げは特記なき限り既存周囲仕上材と同等仕様とする。

有限会社 安本設計事務所
建築士事務所登録 第385号

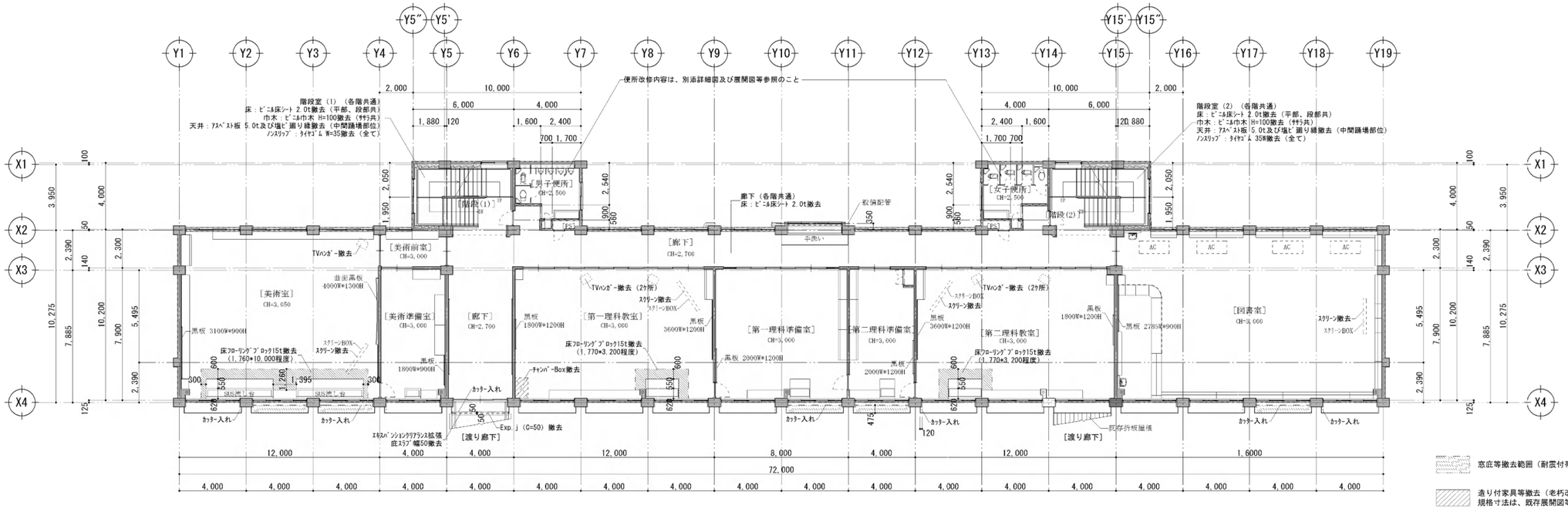
TITLE　西中学校特別教室棟耐震補強（建築主体）工事　設計図
NAME　２階平面図
SCALE　1/200

管理建築士　湯本 藤雄
（一級建築士登録第168673号）

DRAW	CHIEF	HEAD	DATE	図面ー A
	安本	湯本	2014.01	No.－11／76



改修　３階平面図　1/200



既存　３階平面図　1/200

註）各階、階段中間踊場の天井材（ｱｽﾍﾞｽﾄ板）撤去は環境配慮工事とし、関係法令を遵守し、適正に養生、撤去、運搬、処分すること。

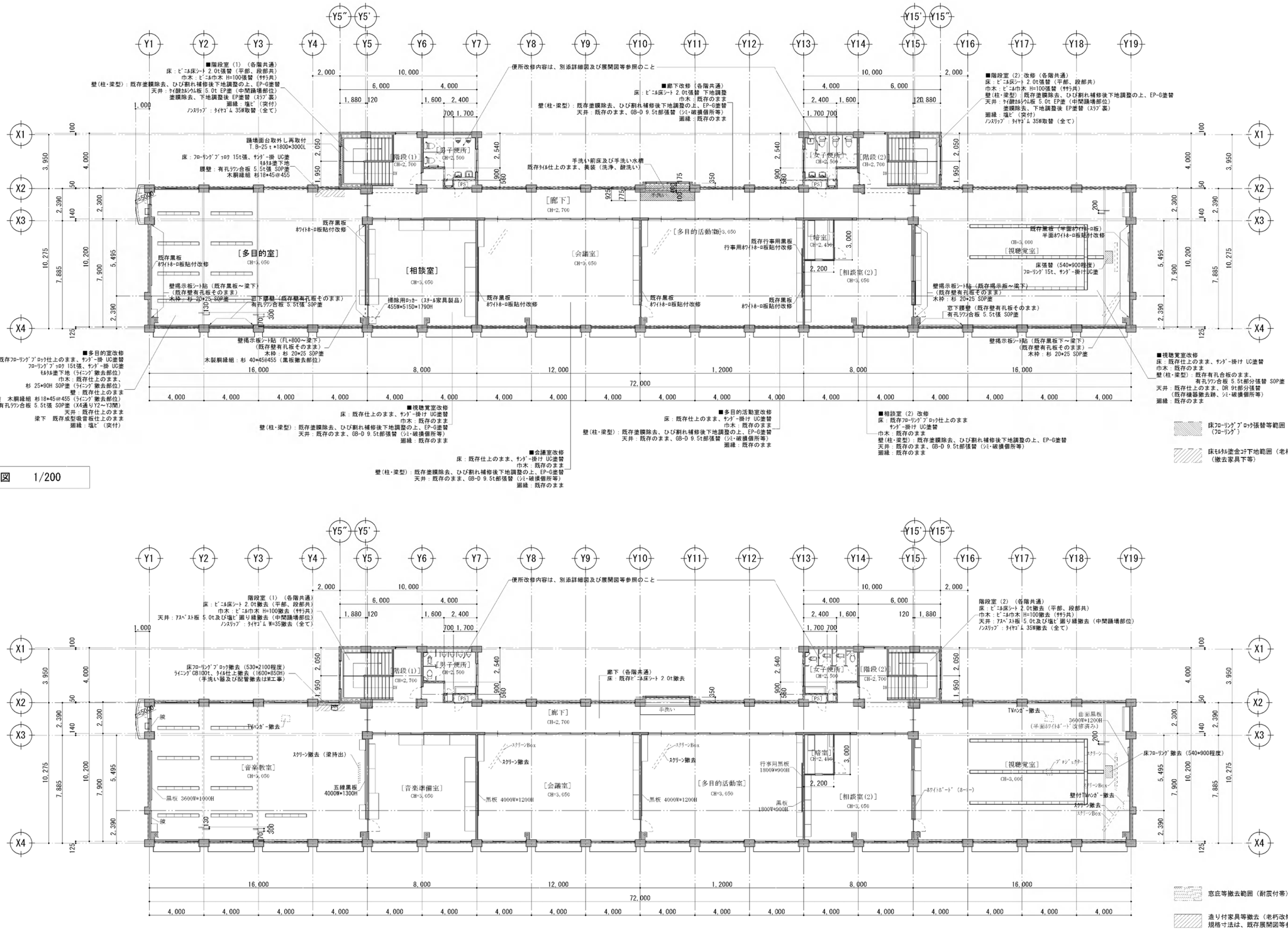
MEMO　<特記事項>　1．庇等の撤去部分の露出鉄筋には、防さびの措置を施し、切断ｺﾝｸﾘｰﾄ面はﾓﾙﾀﾙ等で補修を行うこと。
2．張替ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸはｸｯｼｮﾝ付ﾌﾞﾅ材とし直張工法とする。また、その下地はﾓﾙﾀﾙ塗金ｺﾃ押えとする。

有限会社 安本設計事務所
建築士事務所登録 第385号

TITLE　西中学校特別教室棟耐震補強（建築主体）工事　設計図
NAME　３階平面図
SCALE　1/200

管理建築士　湯本藤雄
（一級建築士登録第168673号）

DRAW　CHIEF　HEAD　DATE　2014.01　図面－A　№－12／76



改修　４階平面図　1/200

既存　４階平面図　1/200

註）各階、階段中間踊場の天井材（ｱｽﾍﾞｽﾄ板）撤去は環境配慮工事とし、
関係法令を遵守し、適正に養生、撤去、運搬、処分すること。

MEMO　<特記事項>　1．庇等の撤去部分の露出鉄筋には、防さびの措置を施し、切断ｺﾝｸﾘｰﾄ面はﾓﾙﾀﾙ等で補修を行うこと。
2．張替ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸはｸｯｼｮﾝ付ﾌﾟﾅ材とし直張工法とする。また、その下地はﾓﾙﾀﾙ塗金ｺﾃ押えとする。

有限会社 安本設計事務所
建築士事務所登録 第385号

TITLE　西中学校特別教室棟耐震補強（建築主体）工事　設計図
NAME　４階平面図
SCALE　1/200

管理建築士　湯　本　藤　雄
（一級建築士登録第168673号）

DRAW	CHIEF	HEAD	DATE	図面－A
	安本	湯本	2014.01	№－13／76